

明治学院大学

2020 年度 事業報告書（抜粋）



(中略)

2. 明治学院大学

(1) 事業計画

- ① キリスト教教育の展開
- ② 教学改革と教育改善の推進
- ③ 入試制度改革の推進
- ④ 学生へのサポート体制および学業支援(奨学金)の強化
- ⑤ 施設および設備の充実
- ⑥ 広報活動の展開
- ⑦ その他

(2) 事業計画の進捗状況

① キリスト教教育の展開

新型コロナウイルス感染症の拡大により、春学期の宗教部行事の多くが中止となった。秋学期以降、かぜのうたコンサート、クリスマスツリー点灯式、クリスマス礼拝等の行事については、事前申込等で参加学生数を把握するなど、密集を避ける工夫をしたうえで開催した。

チャペルアワーについては、両キャンパスとも秋学期より対面を開始したが、例年より少ない参加学生数となった。なお、対面で行えない代わりに、メッセージを録画編集した「オンラインチャペルアワー」を6月から秋学期終了まで、大学ウェブサイトで定期的に発信した。また、横浜キャンパスでは、秋学期の対面によるチャペルアワーを学生や教職員向けにオンラインでライブ配信した。

② 教学改革と教育改善の推進

(a) 自己点検・認証評価への対応 ※認証評価事項

2020年度から内部質保証サイクルの二巡目に入り、規程の整備を進め、体制の確立に注力した。具体的な取り組みとして、学内の各組織における自己点検・評価に基づき、特に教学を中心とする項目については、他学部教員によるピアレビュー評価を実施し、大学全体の取り組みを含め、質保証統括委員会で課題の点検・検討を行った。その後、大学執行部会議での議論を経て、改善が必要と思われる事項に関し、対象組織へ課題解決の指示を行い、改善に向けた質保証サイクルを進めた。

(b) Webを活用した授業評価アンケートの推進

計画を前倒しして2020年度にオンライン授業でもアンケートを実施できるようWebシステムの整備を行った。春学期は従来型の設問を使用せず、対面・オンラインの授業形態に関する設問を設定し、授業ごとではなく春学期の授業全体についての意見を収集した。秋学期は対面・オンラインの設問群のほか、従来型の設問も設定した。

結果について経年比較したところ、多くの設問においてコロナ前の状況に比べて例年同等ないしは例年より満足度評価が高いという結果となった。対面・オンラインのいずれにおいても、コロナ禍において各教員が工夫を行ったことが推察される。

(c) 中長期計画「MG DECADE VISION」の推進

明治学院大学では2015年度より10ヶ年計画「MG DECADE VISION」を策定し、教学改革を推進している。2020年度は第1期後半(2020-2024)の初年度であり、重点政策(グローバルマインド、ボランティアスピリッツ、キャリアデザイン)に基づき、以下の施策を行った。

1) グローバル教育の充実(グローバルマインド)

ア 協定校とのパートナーシップの構築

これまでは留学フェアや海外大学への個別訪問等、出張に重点を置いて国内外の教育機関等とのパートナーシップの構築を実践してきたが、2020年度は国の内外を問わずイベントへの参加や直接の訪問が困難となったため、ネットワークを利用して協定校や関連諸機関との連携維持に努めた。具体的には、オンラインを活用した「コロナ禍でのオンライン国際交流」の取り組みをまとめたWebページを公開した。

イ SDGs スタディツアーの開催

2020年度はオンラインによるSDGs研修プログラムを夏季休暇中および春季休暇中に実施し、夏季プログラムには8名、春季プログラムには4名の参加があった。

ウ 海外派遣学生の研修とピアサポート

留学や海外インターンシップを志す学生に研修や留学経験学生との対話の機会を提供し、海外活動に関する知識・体験値を共有させる仕組みを創設した。これから海外に出ようとする学生への支援とともに、海外経験を終えて帰国した学生のグローバルキャリアのステップアップの場と

して機能させることを目的としている。

2) ボランティア活動の充実（ボランティアスピリッツ）

ア 「1 Day for Others」の見直し

2020年度は例年対面で行っているプログラムを実施することができず、オンライン対応が可能な10プログラムを実施し、115名の学生が参加した。

イ 「いつでもボランティアチャレンジ」（通称「いつボラ」）の周知

2020年度は次の取り組みに助成を行った：コロナ禍による不要な外出の自粛に対応すべく、岐阜県の「障がいを持つ親と子どもの会ホープフルハーツ」からぬいぐるみを預かり、持ち主に代わって学生が観光地を回り撮影し、アルバムにして渡す。

ウ 「明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム」の推進

2016年に始まった本プログラムの3期目として10名の学生が修了生として認証された。課題であった登録1年目の学生のインテグレーション講座への定着率については、2020年度目標の50%を上回ったものの、コロナ禍の影響で1年目の学生の活動報告が例年になく少ない状況となり、今後の認証に向けて不安を残すこととなった。

3) キャリアサポート体制の充実（キャリアデザイン）

ア キャリアデザインに資する教育・支援プログラムの充実

キャリアデザイン（自己理解および社会・職業との接続）のための正課授業については、卒業生団体のへボン経済人会の協力により、新たに「キャリアデザイン2」を開講した。課外講座は、低学年向けの自己分析講座の新規開設等、89のプログラムを実施した。また、採用活動の早期化に対応して、一部の講座は例年よりも早い時期に開講した。

イ 相談体制の充実

相談は全て予約制のオンラインで実施した。緊急事態宣言発令に伴う企業の採用活動長期化により、6月以降は相談枠を増やして対応した。

ウ 学外連携

卒業生団体のホテル白金会に所属の卒業生5名が、オンラインでホテル業界志望の学生と交流を図った。東京新卒応援ハローワーク、東京外国人雇用サービスセンター（外国人留学生対応）から白金校舎に相談員の派遣を受けてオンラインにて就職相談を行い、東京しごとセンターが本学学生向けに21講座を実施した。また、東京商工会議所主催の企業研究プログラム「東商リレーションシップ・プログラム」がオンラインと対面で行われ、本学からも10名の学生が参加した。

<学部生の過去5年の実就職率推移>

卒業年度	2016	2017	2018	2019	2020
就職率(%)	88.3	91.0	91.5	88.6	86.7

実就職率=就職者数÷（卒業者数－大学院進学者数）

<2020年度就職・求人状況>

【就職実績上位】（2021年5月1日現在）

（人）

	企業名	男	女	合計
1	横浜市教育委員会	6	14	20
2	(株) ベネッセスタイルケア	5	13	18
3	明治安田生命保険 (相)	1	16	17
4	東京都教育委員会	5	9	14
5	日本生命保険 (相)	2	11	13
6	横浜市役所	3	7	10
7	(株) システナ	2	7	9
7	(株) ファーストリテイリング	0	9	9
7	レイス (株)	4	5	9
10	第一生命保険 (株)	1	7	8
11	神奈川県教育委員会	2	5	7
11	神奈川県警察本部	3	4	7
11	住友生命保険 (相)	0	7	7
11	日本交通 (株)	7	0	7
11	三井不動産リアルティ (株)	2	5	7
11	(株) 横浜銀行	3	4	7
11	楽天グループ (株)	3	4	7

11	リゾートトラスト（株）	2	5	7
----	-------------	---	---	---

求人件数	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
		9,773	12,259	28,562	21,185

※2017年度以降の求人件数については、求人紹介システム（キャリアタス UC）の仕様変更に伴う企業・団体の求人配布簡素化により増加。

※2020年度の求人件数の減少については、秋以降の企業の求人が減少したことが要因。

(d) シラバスの充実 ※認証評価事項

コロナ禍により、春学期はすべて遠隔授業、秋学期は対面授業（同時配信型）と遠隔授業の併用という急な状況変化へ対応しなければならず、シラバスが年度初めに提示していたものと大きく変わる事となった。本来であればシラバスは履修登録(授業開始)前に提示すべきものであるが、2020年度は各学期の開始前後に、特に授業形態や採点方法についての記述を修正することで対応した。

(e) 科目ナンバリングの推進 ※認証評価事項

2020年度入学生より明治学院共通科目に加え学科科目もすべてに科目ナンバリングが適用され、カリキュラム全体として体系性・順次性が学生に分かりやすく示される事となった。

(f) 大学院における定員未充足問題への対応 ※認証評価事項

コロナ禍により、入試広報は主にオンラインで展開した。大学院事務室主催の進学説明会（年間6回開催）、進学ガイダンス（学内者限定）、研究計画書の書き方セミナーを Zoom で行った。また、優秀な外国人留学生の獲得に繋げるべく初めての試みとして日本語学校教員対象のオンライン相談会（東京、大阪）への参加、中国の動画共有サイト（bilibili）等からの情報配信、Google 広告掲出等を行った。

(g) アクティブ・ラーニングの拡大

担当教員がシラバス上で「アクティブ・ラーニング対応授業」と指定した授業科目については、コロナ禍により、ほとんどの授業で遠隔授業が組み合わせられる事となり、その授業運営の工夫の中で、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業が拡大する事となった。

(h) 社会・地域への貢献

1) ボランティアセンターとの連携 ※認証評価事項

2019年度は港区との協働連携推進事業「チャレンジコミュニティ大学」の修了生組織（CCクラブ）によるボランティアプログラムを、ボランティアセンターの"1Day for Others"に初めて提供してもらった。2020年度はさらにプログラム数を増やす予定であったが、コロナ禍により実現できなかった。2021年度は感染防止対策を強化しつつ、連携可能なプログラムを探っていく。

2) 生涯学習環境の充実

2018年度より開設した「明治学院プラチナカレッジ」は当初6シリーズ（計18講座）を企画・広報していたが、期中に対面での講座実施を断念する事となった。しかし、新たにオンラインツールによる講座提供方法を確立し、1シリーズ（計3講座）を提供した。オンラインにすることで、これまで受講生層の大半を占めていた近隣住民に加え、キャンパスとは離れた地域の方や、学生なども受講生として迎える事となった。

3) 自治体・公共団体との連携強化

第1回東京都社会貢献大賞も受賞した「チャレンジコミュニティ大学」は2007年の開設以来、初めての不開講となったが、CCクラブのメンバーおよび港区とは、オンラインによる会議を実施するなど、継続して良好な関係を築いた。さらに港区との連携で実施している「みなと区民大学」は、全6回をすべてオンライン開講とし、結果として例年以上の受講申し込みがあるなど、コロナ禍においても活発に活動することができた。

島崎藤村ゆかりの長野県小諸市との連携は、「藤村忌」「クリスマスツリー点灯式」「調査研究活動奨励金」などは県をまたぐ移動となることから断念せざるをえなかったが、4年目を迎える自治体推薦入試は実施・継続した。

(i) MG オリンピック・パラリンピック支援プロジェクト

新型コロナウイルス感染症拡大を受け MG オリンピック・パラリンピック支援プロジェクトも思うような活動ができない1年間となったが、教育の視点からの正課授業を行い、学生組織を中心としたプロジェクトを展開した。

(j) 内なる国際化

2020年度より新たに法律学科と心理学科の参加を得て、「ボランティア実践指導」（ファーストリテ

イリング財団寄付講座)などの科目を開講し、多文化共生サポーター31名、多文化共生ファシリテーター6名の学生を認証した。

また、「難民等外国につながる小中学生のための春休み集中学習支援教室」(社会福祉法人さぼうと21との共催)、オンラインイベント「多文化 OPINION EXCHANGE ー多様なコミュニティとの繋がりを模索するー」(一般財団法人自治体国際化協会との共催)などを開催した。

③ 入試制度改革の推進

2021年度入試(2020年度実施)では、次の入試制度改革を行った。

- ・学校推薦型選抜(系列校特別推薦・指定校推薦)において全学科で面接ないしは小論文を課すこととした。

- ・大学入試センター試験の後継である大学入学共通テストの利用入試を実施した。

実施にあたっては、文部科学省による試験実施のガイドラインに沿って、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底させた上で試験を行った。

広報面では、ほとんどの高校生対象のイベント(オープンキャンパス、進学相談会、校内ガイダンス等)が中止、あるいは開催形式を変更し規模を縮小して実施せざるをえなくなった。そのため、Webオープンキャンパスなどオンライン形式によるイベント開催や、Webコンテンツによる情報発信を強化した。

<過去5年の志願・受験・合格推移>

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
志願者数	27,396	32,029	28,947	23,480	23,000
受験者数	26,545	31,074	27,760	22,542	22,102
合格者数	8,696	6,935	6,443	6,695	7,769
手続者数	3,205	2,844	2,725	2,790	2,966
入学定員	2,950	2,950	2,950	2,950	2,950
定員充足率(%)	108.6	96.4	92.4	94.6	100.5

*編入、9月入学を除く

④ 学生へのサポート体制および学業支援(奨学金)の強化

(a) 教務部における相談支援体制の充実

学生の相談については、これまで窓口で対面のみ受け付けであったが、メールや電話による対応も行い、柔軟に相談を受け付ける体制とした。

(b) 学生への総合サポート体制の充実

1) 健康診断の効率化および健康支援の充実

新型コロナウイルス感染症拡大のため、2020年度は4月実施予定の学内健診を9月に延期した。感染予防対策をとりつつ、①Web問診へ変更②滞在時間を短縮するために受診項目を最小限にとどめる③完全予約制④提携する近隣の健診機関に学外健診と証明書発行サービスを委託するなどにより実施した。

また、新型コロナウイルス感染症対策として、両キャンパスで以下の対応を行った。

ア 学内の感染症対策用品として、手指消毒用アルコールボトルの追加設置、非接触型検温計(ハンディタイプ)の貸出、非接触型検温計(タブレットタイプ)の設置を行った。

イ 対面授業・課外活動の段階的再開希望に対し、学生の行動範囲が広がり感染リスクが高まったことを受けて、呼吸器感染症が専門の学校医の協力を受け、学部学科、学内各部署へのコンサルテーションを実施した。

ウ 学食や学生ラウンジについて、校医指導のもと、パーテーションの設置や各座席に着席不可シールを貼るなど飛沫感染防止対策を講じた。

2) 発達障がい(傾向を含む)をもつ学生を意識した就労等支援の充実

2020年度は秋学期のみオンラインで11月11日~12月9日に全5回の講座を実施した。

3) 多文化共生を担う学生サポートスタッフの育成

学生サポートスタッフ(主に聴覚障がい学生支援のノートテイク)の養成テキストが完成し、対面での講座・練習を補完するオンライントレーニングシステムも完成した。

2021年3月時点でのノートテイク数は50名となった。

(c) 横浜キャンパスにおける学生サポート

1) 通学対策

横浜キャンパスの通学問題が解決をみた。行政(横浜市・戸塚区)・江ノ電バス・本学の協議によ

り、2021年4月下旬より、戸塚駅東口バスロータリー内の降車レーンより、本学行急行バスの運行が開始されることとなった。また、あわせてこれまで大学から戸塚駅に向かう一部の便だけで使用できた特割回数券（通称：100円バス券）を戸塚駅・大学間の全バス便において利用できることにした。

2) 横浜キャンパスプロジェクトの推進

春学期はコロナ禍により、各プロジェクトの活動を行うことはできなかった。秋学期はヤギ除草の開始、キャンパスコンシェルジュの活動再開、J.C.バラ・プログラムやチャリティライブを完全オンラインにより開催した。また例年行っていたエコキャンパスうちわデザインコンテストに代わり、レジ袋有料化に伴う「エコキャンパス・エコバッグデザインコンテスト」を開催した。

(d) 図書館における学生の主体的学びの推進

1) 図書館でのトータルな学習支援の実践

対面での学習支援活動ができなくなったため、オンラインで利用できるサービスを拡充した。図書館ホームページへのコロナ対応特設サイトの設置による電子資料の情報の集約、一部データベースのアクセス数増加、オンラインレファレンスの実施、オリエンテーション、ガイダンスのコンテンツを動画で作成、公開した。また、来館できない学生のために郵送による貸出、文献複写物の提供サービスを行った。

2) 横浜図書館のICT環境を活用した学生の主体的学びの推進

改修後5年となる横浜図書館の利用実態を把握するため、学生、教員にアンケートを実施した。その結果をふまえ、機器等の設備とアクティブラーニングに対応した運用を計画する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大により、閲覧席を制限、グループ利用も停止となり、具体的な計画と実施には至らなかった。

(e) 高等教育無償化制度への対応

文部科学省による高等教育の修学支援新制度が2020年4月から実施されたことに伴い、経済支援を目的としたへボン給付奨学金および白金の丘奨学金について規程改正を行った。これにより、従来、学内奨学金の受給額が低かった学生に対し、より手厚い支援が可能となった。

また、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で（雇用の喪失や収入の急減など）家計が急変し勉学の継続に支障をきたした学生を対象に、「新型コロナウイルス感染症対応給付奨学金」および「私費外国人留学生緊急給付金(新型コロナウイルス感染症対応)」を新設した。実績として、新型コロナウイルス感染症対応給付奨学金は学部生延べ273名（総支給額：109,200,000円）、大学院生1名（支給額：400,000円）、私費外国人留学生緊急給付金(新型コロナウイルス感染症対応)は学部生100名（総支給額：19,700,000円）、大学院生23名（総支給額：4,600,000円）に奨学金を支給した。

⑤ 施設および設備の充実

(a) 教室・実習室のICT設備機器のHDMI対応

教室・実習室におけるICT設備機器については、2020年度にシステム更新工事（白金5教室、横浜8教室）を実施したことで、ビデオプロジェクターを含めたAVシステムのHDMI対応教室数は、白金・横浜・高輪校舎全教室203室のうち162室となった。

＊HDMI：High-Definition Multimedia Interface パソコンとディスプレイを接続する規格のひとつ。1本のケーブルで、映像・音声を合わせて送受信することが可能。

またコロナ対策の一環で《対面授業（同時配信併用）》と《遠隔授業（オンデマンド/同時配信）》を実施する環境整備として、以下を実施した。

- 1) 教室AVシステムのハウリング対策を白金28教室、横浜32教室にて実施し、小教室では会議用集音マイク・スピーカーシステムを白金26式、横浜10式を導入した。また、ほぼ全教室に書画カメラを設置し、PC内蔵カメラでは捉えづらい板書やスクリーンを含めた画角の授業映像を配信できるようにした。
- 2) 遠隔授業の同時配信や遠隔授業（オンデマンド）用の動画教材制作に対応するため、スタジオ教室を白金10教室、横浜12教室整備した。
- 3) 上記で発生する学内ネットワーク通信量の増大に対し、無線LANアクセスポイントの追加設置を白金62台、横浜41台行った。
- 4) 教室やスタジオ教室での教員負担を軽減するため、業務委託スタッフと学生アルバイトを新規に契約しサポート体制を構築した。また新システムを含めた利用マニュアル整備や問合せ対応にも別途スタッフを増員し利用者へのサポートにあたった。

(b) 課外活動施設不足の解消

既存施設の有効活用の観点から、戸塚グラウンド黎明館の多目的グラウンドを人工芝化する計画に

についての検討を進めた。

(c) 防災対策

白金、横浜両キャンパスとも、継続して以下の対策を進めた。

- 1) 防災備蓄品の新規購入および更新（特に横浜では備蓄食の補充および災害用トイレ薬剤の更新）を行った。また、エレベーターが停止した際に歩行困難な人を降ろす非常用階段避難車を両キャンパスに設置した。
- 2) キャンパスごとの防災訓練を定期的実施した。
- 3) 地域貢献として、白金では帰宅困難者・滞留者等の受入れ施設として機能するよう検討した。横浜では行政（戸塚区）・本学双方にて締結した「災害ボランティア活動拠点の設置に関する協定」について内容の再確認（チェック）を行った。
- 4) 非構造部材（天井材等）の落下防止工事について、白金はパレットゾーン白金の第1アリーナ、横浜は8号館1階のインターナショナルラウンジとC館2階・3階の食堂、6号館1階・2階の3教室が完了した。
- 5) 2019年度に教務部が導入した「時間割アプリ」（スマートフォンアプリ）について、災害時の情報伝達ツールとしても利用できるようプッシュ通知機能を追加した。

(d) 環境問題への取り組み

トイレ改修工事では節水型器具を採用して、白金キャンパスでは本館地下1階、横浜キャンパスでは1号館の全フロアーを施工した。

2015年度に横浜キャンパスで完成した自律(自立)型エネルギーの設備において設置した太陽光パネルでは2020年度の1年間で約107,701kw/年の発電があり、雨水・井水の利用で254 m³/年の節水となり環境負荷の低減と省エネに寄与している。白金キャンパスに於いても雨水の利用で3,215 m³/年の節水となった。

⑥ 広報活動の展開

2020年度の数値目標では、日経BP社の「大学ブランド・イメージ調査」のランキングで、首都圏ノミネート校120校中、上位20位（2019年度：25位）に入ることを目指したが、結果は23位となった。各広報活動については、以下により展開した。

(a) ターゲットを見据えた広報展開

2020年4月より、SNSの中でも若年層の利用が多いInstagramでの発信を強化し、大学生にとって役立つツールとして使ってもらえるべく投稿内容を厳選した。また、大学からの情報発信がわかりやすく在学生の手元に届くよう、Webサイトやポータルサイト内のニュースを集め、積極的に周知した。各SNSとも順調にフォロワー数を伸ばしている。

(b) プレスリリースの強化

コロナ禍において、対面でのイベントが軒並み中止になったこともあり春学期は一時的にプレスリリースの回数が減ったが、Webページのコンテンツにおいて教育内容を充実させ、その内容をリリースするというサイクルを構築した。また、奨学金給付等の取り組みや秋学期からはオンラインイベントについて、積極的にリリースを行った。

(c) 大学Webページの充実

動画コンテンツ「明学の理由。」を、コロナ禍における新しい大学生活を伝えるものとして製作・公開した。またWebサイトにおける重要なコンテンツとして「明学×人」において、教員の研究や取り組みをインタビューして掲載し、それをリリースとSNSで周知するサイクルを構築した。

⑦ その他

(a) 勤務員の就労環境の見直し

2020年度は、教育研究補助職および特別嘱託職員の任用に関する規程の見直しを優先的に行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う勤務員の就労環境の整備を優先的に行った。

(b) ハラスメント防止・対策に関する啓発活動

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年実施している対面での講演会は行わず、厚生労働省のホームページ情報を参考にパワハラチェックリストを作成し、各学部（教養教育センター含む）教授会、部次長会・課長会等それぞれの方法で実施した。

(c) 若年層の校友会諸活動活性化

2020年度はコロナ禍の影響から、校友の集い他の行事を中止とした。若年層を対象とするイベント「MGクリスマスビュッフェを楽しもう！」については、クリスマスプレゼントを提供する企画に切り替えて実施した。

(以下、略)

明治学院大学

2021 年度 事業報告書（抜粋）



(中略)

2. 明治学院大学

(1) 事業計画

- ① 明治学院のキリスト教教育の展開 <教学>
- ② 教学改革と教育改善の推進 <教学>
- ③ グローバル教育の充実 <教学>
- ④ ボランティア活動の充実 <教学>
- ⑤ キャリアサポート体制の充実 <教学>
- ⑥ 学生へのサポート体制および学業支援(奨学金)の強化 <教学>
- ⑦ その他の計画 <教学>
- ⑧ 施設および設備の充実 <施設>
- ⑨ 人事体制の強化・整備 <人事>

(2) 事業計画の進捗状況

2021年度より、明治学院大学の事業計画は、学校法人明治学院中期計画(2020-2024)に基づく施策ならびに単年度計画のうち重点的に取り組む施策を中心に記載しており、その計画に基づき、報告を行う。

※◎は中期計画掲載案件、○は短期案件を表す。

事業計画には記載していなかったが、情報数理学部情報数理学科を横浜キャンパスに2024年4月に設置することについて学内合意を得たのち理事会で承認され、認可申請に向けた準備を開始している。1学年80名を予定している。開学に向けて、新学部棟の設計、申請書類準備、広報活動などに着手している。

① 明治学院のキリスト教教育の展開 <教学>

◎【建学の精神の浸透】

「オンラインチャペルアワー」を5月～12月の間に、計16回発信した。昨年度に引き続き「オフラインの日」も実施した(3月9日)。また、新たにキリスト教を紹介する講座「アルファオンライン」をスタートさせた。クリスマス礼拝、クリスマスツリー点灯式についても昨年度同様、事前申込等感染症対策をしたうえで開催した。

② 教学改革と教育改善の推進 <教学>

◎【教学改革に対する財政支援】

将来的に全学部の学生に展開できるような取り組みへの支援を行う「学長プロジェクト」、各学科の教育の特徴を際立たせる取り組みへの支援を行う「学長裁量的予算枠プロジェクト」を用意し、各プロジェクトの進捗状況を踏まえ、予算を増減するなど、進捗管理を適切に実施した。

学長プロジェクト	・「内なる国際化」に対応した人材の育成 ・21世紀型リベラルアーツ教育のための教材・カリキュラム開発と実施：グローバル・シチズン育成を目指して
学長裁量的予算枠プロジェクト	・実験経済学・行動経済学プロジェクトの展開 ・国際化教育の展開と検証 ・座学とフィールドスタディを組み合わせた平和学短期講座 ・LLTS[Learning to Live Together Sustainably]ー持続可能な共生社会を目指すグローバルシチズンシップ涵養のための教育ー

◎【教育の範囲や内容の拡充】

全学生向けAI・データサイエンス教育の導入に向けて情報教育ワーキング・グループを設置し、カリキュラム等の検討を行った。2023年度からの実施に向けて準備を進めている。

◎【アクティブ・ラーニング授業充実のための支援】

コロナ禍においてやむを得ず遠隔授業が実施された状況であったが、オンライン授業サポートページを学生向け、教員向けに提供し、ZoomやTeamsなどを有効活用することでグループディスカッション等、アクティブ・ラーニングの機会を充実させた。

◎【教育の質保証】【体系的なカリキュラムの構築】

(※2015年度受審の認証評価において、指摘事項として挙げられた大学院の定員未充足問題に対応する施策)

前回(2015年度)の認証評価において、一部研究科で努力課題として指摘された「博士後期課程におけるリサーチワークにコースワークを適切に組み合わせたカリキュラム編成」について、2022年度のカリキュラムの見直しの際、博士後期課程にコースワーク科目を設定した。

○【Webを活用した授業評価アンケートの推進】

紙媒体からWebシステムへの切り替えを行い、「身につく能力」についても設問に追加し、春・秋ともにトラブルなく実施した。

◎【大学院における定員未充足問題への対応】

(※2015年度受審の認証評価において、指摘事項として挙げられた大学院の定員未充足問題に対応する施策)

大規模な日本留学フェアである、JASSOの日本留学オンラインフェア・日中留学推進機構オンラインフェアに参加し、外国人留学生獲得に努めた。特に後者については、本学のブースに2,085名の視聴者があった。

◎【研究支援】

2021年度は科学研究費助成事業の応募率9.7%(研究者数352人・応募34件)、新規採択率58.8%(採択20件)であった。

③ グローバル教育の充実 <教学>

◎【協定校とのパートナーシップの構築・強化】

海外大学・機関(ハワイ大学マノア校・トウレーヌ学院・ソウル国立大学)とのオンラインプログラムを4件主催して実施し68名が参加、また海外大学でのオンラインプログラム4件に費用補助のうえ学生を募集し19名が参加、あわせて87名の参加を得た。また、ダナン大学との協定締結の調印式をオンラインで実施した。

◎【留学準備や国際的視点を養うためのサポート体制の整備】

留学する学生の渡航前・帰国後研修、留学を経験した学生が留学を志す学生を支援するピアサポートの研修・体制構築、国際貢献インターンシップ・プログラムの研修を外部業者に委託して12回実施した。参加者は293名であった。事後アンケートによれば、運営に携わった学生メンバーに主体性の向上が見られた。

◎【留学生と日本人学生の交流の活性化】

5回のオンラインイベントを実施し、98名の参加を得た。通年のバディプログラムには留学生・一般学生あわせて72名が参加した。

留学生会の総会や新入生の歓迎会はオンラインでの実施が定番となっており、多くの一般学生が参加した。新しい試みとして、留学生会の会報を13名の学生が関わる形で作成し、留学生会の活動の認知にもつながった。

○【SDGs フィールドスタディーズの開催】

コロナ禍で学生の現地派遣が困難なため、オンラインプログラムを展開した。ベトナムのJunko Schoolとその支援団体の講演会、外部業者によるカンボジアを舞台にしたSDGs学習、カンボジア・インドネシアでのインターンシップやその説明会を開催し、合計55名の参加を得た。

④ ボランティア活動の充実 <教学>

◎【ボランティア・サティフィケイトの推進】

登録学生が互いの活動を紹介できる場として、月1回のサティフィケイト交流会をオンラインで開催した。そこで先輩たちの取り組みを紹介されて後輩が活動に加わるなどの成果が見られた。運営委員からは、授業等では見られない学生の積極的な様子を知ることができたとの感想が寄せられた。

◎【すべての大学関係者によるボランティア活動を促進する】

いつでも申請できるボランティア支援制度「いつでもボランティアチャレンジ(いつボラ)」について、冊子やホームページでの広報活動を行った。

○【1Day for Others の見直し】

コロナ禍が収束しなかったため、受入先への訪問は4団体（新規開拓団体1団体）に留まった。オンラインを活用し、既存のプログラム提供団体（10団体程度）とプログラム改善のための検討を行った。また、1 Day for Others のプログラムにオンラインの企画を新設した。

○【社会課題に向き合う場の提供】

社会課題に向き合う場の提供に際し、学外の81団体（学校や行政など含む）の協力を得た。学外の推進委員からアドバイスをもらう機会を設けたほか、1 Day for Others やボランティアカフェなどのプログラム企画を外部団体と実施した。またオンラインを活用して、遠隔地と学内のボランティアサークルなどをつなぐことができた。

⑤ キャリアサポート体制の充実 <教学>

◎【就職活動支援講座の充実、キャリアデザインに資する教育の充実】

キャリアデザインのための正課授業の認知推進、MG キャリア講座等の就職支援プログラムを実施した。また、これらのプログラムを推進するインフラとして新システム「MG キャリアクルー」の運用を8月から開始した。順次機能を拡張し、Web上で多くのサービスを提供できるようになった。

○【相談体制の充実(キャリアセンター)】

相談枠数の増設や新システム導入により、“キャンセル待ち”の状況は大きく改善した。経験年数の浅い職員に対して、特定非営利活動法人日本キャリア開発協会による「キャリアカウンセリング技能向上研修」を行い、カウンセリング技術の向上を図った。

○【学外機関等と連携した就職支援の充実】

「東京しごとセンター」派遣の講師によるグループディスカッション講座、ホテル白金会との連携による就職支援の取り組み「ホテル業界 OBOG 交流会」を実施した。この交流会は低学年が参加できる貴重な機会となっている（43名の参加者中、1,2年次生は29名）。

○【発達障がい(傾向を含む)をもつ学生を意識した就労等支援の充実】

2021年度もオンライン方式による開催であったが、従来の対面方式の講座とほぼ同様の内容を9回にわたって実施した。Zoomのbreakout roomを活用して個別相談も行うなど、本講座の特徴である一人一人の特性やニーズに応じた支援を行った。また本講座をきっかけにカウンセリングにつながり、講座終了後も個別に就活支援のフォローアップを受けている学生もいる。

○【企業との連携強化】

様々な企業・団体から協力をいただき、寄付講座・パートナーシップ講座を開講し、実社会での現場経験を踏まえた教育の提供を推進した。

	提供元企業・団体
寄付講座	日本税理士会連合会、日本取引所グループ(JPX)、プロネクサス 野村証券、ファーストリテイリング財団、三菱UFJ信託銀行
パートナーシップ講座	読売新聞社、日本赤十字社

⑥ 学生へのサポート体制および学業支援（奨学金）の強化 <教学>

◎【学業支援（奨学金）の再整備】

「無償化」対象ではないへボン給付奨学金の対象学生について、学内奨学金と修学支援新制度とのバランスを考慮し、なるべく公平な制度となるよう、前年度の給付額より増額する運用を行った。

◎【多文化共生を担う学生サポートスタッフの育成】

オンライントレーニングシステムの活用による学生サポートスタッフの体系的養成を実施した。また、障がいに関連する講演会・ワークショップを実施した。

○【相談体制の充実(教務部)】

相談については予約制を採用し、電話・メールでの対応を行った。メールでの回答は窓口対応に比べ時間を要するが、伝達したことが残るため、聞き間違い・言い忘れのトラブルが減少した。アフターコロナでも引き続きこの体制を維持していく。

○【スポーツプロジェクトを中心とする課外活動への支援】

サッカー部、バスケットボール部女子、バレーボール部男子が上位リーグへの昇格を果たし、既に1部に所属しているアメリカンフットボール部、ラクロス部男子、ラクロス部女子は残留を決めた。

⑦ その他の計画 < 教学 >

◎【首都圏以外からの学生（特別入試も含めて）の確保】

学外入学試験会場を設けている4都市に加え、受験生人口が比較的多い大阪府、兵庫県、愛知県、長野県、山梨県の駅に本学のポスター掲示を行い広報を図った。また、オープンキャンパスや One Day Campus の PR のための Web 広告や、入試の出願促進のための Web 広告について、首都圏以外のエリアを対象に入れるなどの施策を行った。

○【入試業務のオンライン化】

新型コロナの感染状況から夏のオープンキャンパスは Web で開催し、事前申込件数は 4,013 件であった（前年度 2,370 件）。また、定期的に「オンライン大学説明・入試説明・個別相談」も実施した。国際学部 2 学科の一部の入試制度で Zoom によるオンライン面接試験を実施した。

○【内部質保証体制の構築とその実質的な運用】 ※認証評価事項

評価機関へ提出する「自己点検・評価報告書」の作成を通じ、質保証統括委員会および執行部会において、体制の構築状況に関する確認を行った。また、質保証体制に関する委員会等の規程について更なる見直しを進め、体制の構築については一定の進展が見られた。

◎【広報力の強化】

(a) ターゲットを見据えた広報展開の継続

SNS の運用に関して、ツール自体の見直しなど都度最適な手法で若年層へのアプローチを続け、さらに高度なアプローチができるよう、新しい専門業者の選定を行った。

(b) プレスリリースの強化

教員の研究を切り口にしたプレスリリースをより意識し、教育研究の充実をアピールした。教員への取材依頼も増えており、よい反応を得ることができた。

(c) 大学 Web サイトの充実

2021 年度は「明学の理由。」を動画とテキスト合わせて 59 本作成した。アクセス総数は 298,861 件であり、本学の特色を示す重要なコンテンツに成長している。

◎【横浜キャンパスプロジェクトの推進】

(a) 通学対策

戸塚駅バスレーンでの急行便発着を開始した。江ノ電バスの要請により、100 円バス券は 2021 年度をもって廃止し、2022 年度から学期定期券を導入することとなった。

(b) ピアサポートの推進

キャンパスコンシェルジュは、対面に加え YouTube や Instagram、Twitter など、複数の SNS で情報発信する体制を確立した。

(c) 「社会貢献」活動の実施と学生への意識浸透

「戸塚まつり」は、キャンパスに観客を動員できない中で、オンラインでのライブ・オンデマンド配信や、地域店舗に学生が出かける企画を実施した。「エコバッグデザインコンテスト」では、投票した学生 295 名のうち 92% の学生から「このコンテストがエコを知るきっかけとして効果がある」との回答を得た。

(d) 飲食環境の充実

学生が中心で行った「ごはん部」の活動としては、Instagram でのレシピ紹介や、キッチンカーのコンテストなど、学内外での飲食環境を充実させる取り組みを行った。コンテストに投票した学生は 157 名で、改善につながる意見が寄せられた。

○【生涯学習環境の充実】

2018 年度より開設した「明治学院プラチナカレッジ」は 4 年目を迎えた。コロナ禍に伴い社会への学びを提供することを優先し、春学期はオンラインツールによる講座提供とした。これにより地方からの新たな参加者を取り込むことができた。秋学期は収束を予測し対面で実施した。

○【自治体・公共団体との連携強化】

2007年から続く「チャレンジコミュニティ大学」は、コロナ禍でも対面で実施した。港区と連携している「みなと区民大学」は、オンライン開講とした。学園祭もオンライン開催のため「無料法律相談会」に代わる動画を作成し、港区役所HPにて情報提供した。島崎藤村ゆかりの長野県小諸市とは、互いの連携強化に努めた。小諸市を訪問できなかったため「藤村忌」には校歌を提供し、冬にはクリスマス動画を提供した。また、高輪ゲートウェイ駅を中心とした街づくりにJR東日本と参加し、学生と企業との連携関係を築いた。

○【ハラスメント防止・対策に関する教職員への研修会（講演会）・啓発活動の強化】

新型コロナウイルス感染防止の観点から、2020年度に引き続き人権委員会主催の研修会の開催は見送った。しかし、近年、他大学、企業等で増えてきているパワハラに対する教職員の意識醸成が必要であると考え、9月に開催される職員全体研修会において、専門相談員による講演を実施した。

また、「ハラスメント・チェックシート（アカハラ編）」を作成し、教授会等を通じて周知することで、ハラスメント防止の認識を向上させるよう努めた。

○【校友との絆の強化】

2021年度の各地校友会は、6会場での開催が計画されていたが、コロナ禍によりいずれも中止とし、他の活動に振り替えた。

○【健康診断の効率化および健康支援の充実】

健康診断は受診項目を見直し、外部システムを利用して完全予約制とした。また、感染症予防、利用者の満足度上昇、人件費削減を目的とした「予約システム構築・健康管理マイページ作成」を構築中である。

◎【環境問題への取り組み】

省エネルギーのための取り組みとして照明LED化工事を計画し、白金キャンパスは予定通り実施したが、コロナ禍による半導体不足の影響を受け、横浜キャンパスのLED化工事については延期となった。

○【MGオリンピック・パラリンピック支援プロジェクト】

大会期間中に、国際オリンピック委員会・国際パラリンピック委員会との協定を踏まえ Games Experience Program（将来の組織委員会のメンバーが大会運営を学ぶプログラム）に協力し、その運営に特別ボランティアとして25名の学生が参加した。

⑧ 施設および設備の充実 <施設>

◎【横浜キャンパスの整備】

情報数理学部で使用する予定の新学部棟について、建設作業に着手した。

◎【サテライトキャンパス（教室）の設置を目指す】

サテライトキャンパスに適した候補地については、継続して調査を続ける。

◎【図書館における学生の主体的学びの推進】

2020年度に引き続き、大学に来られない学生の満足度を維持するため、オンラインレファレンス、オリエンテーション、ガイダンスのコンテンツの動画作成・公開、郵送による貸出、文献複写物の提供サービスを行った。

○【教室・実習室のICT設備機器の充実】

白金8教室、横浜10教室のHDMI化（High-Definition Multimedia Interface）対応工事を実施した。これにより、203教室中166教室がHDMI化され、未対応は37教室となった。

◎【防災計画】

デジタル無線機の整備が完了した。食品備蓄については、数日間の滞在に必要な食数として、横浜キャンパスに36,010食、白金キャンパスに32,742食を備蓄した。

⑨ 人事体制の強化・整備 <人事>

◎【事務組織の見直しと強化】

事務組織の再編・統合について検討を行った。

◎【勤務員の就労環境の見直し】

勤務員の就労環境の見直しにあたり、専門職種、非常勤講師に関する規程について点検を行ったが、規程改正には至らなかった。

○【財務状況の理解度向上を目指す研修会の実施】

2020年度決算の数字を使って財務諸表の見方を説明する資料を作成し、学内での情報共有を図った。

(以下、略)

2020年度および2021年度 報告一覧

1_社会学部

1-1_明石留美子教授(社会学部)のゼミ生

カンボジアで日本語を学ぶ子どもたちにオンラインで学習支援

2_社会学部附属研究所

2-1_2020年度 市民講座/地域創り担い手学習会

〈地域の多様な家族が孤立しないために私たちができること〉

3_法学部

3-1_グローバル法学科【SDGs リレー模擬授業 2022】オンライン開催

4_国際学部附属研究所

4-1_2021年度公開セミナー「新しい共生を考える ―ジェンダーが照らす社会の未来―」

4-2_2021年度国際シンポジウム「兩岸関係と東アジアの平和」

'Cross-Strait Relations and Peace in East Asia'

5_国際平和研究所 (PRIME)

5-1_PRIME 主催「世界難民の日」企画・公開オンラインセミナー

ジェノサイド後のルワンダ難民、なぜ「母国」への帰還を拒否するのか

5-2_PRIME 共催シンポジウム

開国の前線に立つ女性たち～近代の性売買におけるインターナショナルリティ～

5-3_UNHCR WILL2LIVE Cinema 学校パートナーズ 白金祭企画

映画上映&トーク『難民キャンプで暮らしてみたら』

5-4_PRIME 後援オンラインシンポジウム 女性国際戦犯法廷 20年オンライン国際シンポジウム

女性国際戦犯法廷の判決/証言を未来にどう活かすか

～いまこそ性暴力不処罰と植民地主義を断ち切るために～

5-5_【PRIME 共催公開シンポジウム】

「10年経って何ができるか、何をすべきか：シリアの現在、過去、未来」

5-6_UNHCR WILL2LIVE Cinema 学校パートナーズ 明治学院大学

映画上映&トーク『ナディアの誓い』

5-7_UNHCR WILL2LIVE Cinema 学校パートナーズ 明治学院大学

映画上映&トーク『レフュジ― 家族の絆』

5-8_UNHCR WILL2LIVE Cinema 学校パートナーズ 明治学院大学

『女を修理する男』上映&トーク

6_内なる国際化プロジェクト

6-1_「内なる国際化」プロジェクトから新刊書『多文化共生社会で何を指すのか』が出版

6-2_朝鮮学校の今を知る動画作品『埼愛キムチ日記—共に生きる埼玉をめざして』を紹介

7_総合企画室社会連携課

7-1_2020年度 明治学院プラチナカレッジ オンライン開催

「地域と共に育む子ども～子どもの最善の利益を目指して～」

7-2_2021年度 明治学院プラチナカレッジ SDGs と地球環境への新たな取り組み

7-3_コロナ禍とわたしたちの社会——パンデミックのなかで生きること

8_公益通報

9_国際化への取り組み

2020年11月27日

明石留美子教授(社会学部)のゼミ生が、カンボジアで日本語を学ぶ子どもたちにオンラインで学習支援

開発途上国での福祉的支援のあり方の研究に取り組む明石留美子教授(社会学部社会福祉学科)の3年次ゼミ生が、フィールドワークで出会ったカンボジアの子どもたちの日本語教室に、2020年10月中旬からオンラインで学習支援を行っています。この取り組みを通して、SDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」の実現を目指し、明治学院大学の教育理念“Do for Others(他者への貢献)”にもつながると考えています。

【目的】

- (1)12月6日にカンボジアで実施される、日本語能力試験N5レベルの合格を目指す「ひろしまハウス」の子どもたちへの学習支援。
- (2)新型コロナウイルス感染拡大により、十分に教育を受けることができない子どもたちへの学習補助。
※「ひろしまハウス」は広島とカンボジアの平和と友好を記念してプノンペンに建てられ、貧困家庭の子どもたちに無償で教育支援を行っており、クメール語、算数、英語、日本語を教えています。

【実施内容】

「ひろしまハウス」で日本語能力試験N5レベル合格を目指して学ぶ、子どもたち16名に、2020年10月より毎週月曜日と金曜日に明石ゼミ生がZoomでのオンライン授業を行い、課題作成・学習管理にも取り組んでいます。また、オンライン授業に必要な現地の機器を拡充するためのクラウドファンディングによる資金調達を行う予定です。継続的な支援のため、明石ゼミで学ぶ、現2年生へのプロジェクトの引き継ぎも計画しています。

【企画背景】

明石ゼミ生は、2019年度に授業「福祉開発フィールドワーク」でカンボジアを訪問し、貧困家庭の児童に無償で教育支援を行っている「ひろしまハウス」の子どもたちに学習支援を行いました。現在、新型コロナウイルスの感染拡大により、カンボジアでは一部を除き休校が多い状況にも関わらず、オンライン学習がほとんど普及しておらず、教育の機会が制限されています。この状況を知り、以前よりつながりのある「ひろしまハウス」の子どもたちを支援することをゼミ生が希望しました。

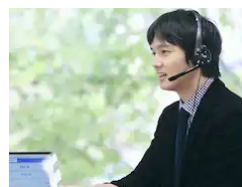


学生がひろしまハウスの子どもたちにオンラインで学習支援

おすすめ



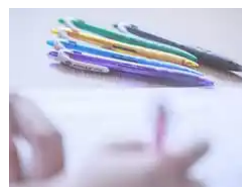
明学での出会い、学び、これからの夢。それぞれの明学ストーリー。「明学の理由。」



【キャリア支援】キャリアをデザインできる人間を育てる



入試情報はこちら



各学部学科の最新情報はこちら

明治学院大学社会学部附属研究所主催
市民講座/地域創り担い手学習会

〈地域の多様な家族が孤立しないために私たちができること〉

参加費無料

コロナ禍と若者支援

～いま、若者と家族に 何が起きているか～

〈第1部〉13:00～14:30 講師による話題提供0

◆講師紹介〈フォーマルケアの立場から〉

美濃屋 裕子氏

1982年生まれ、広島県出身/臨床心理学科卒/東京都在住。社会福祉士・公認心理師・高等学校教諭等の資格を持つ。児童福祉施設・若者サポートステーション相談員、よこはまユースプラザ支援員、横浜市寄り添い型学習支援、義務教育スクールソーシャルワーカー等を経験し、現在は週二回の神奈川県立高校スクールソーシャルワーカーの仕事を中心に、ファースト・ステップ(民間DVシェルター・フードバンクかわさき事業)副代表理事、ソーシャルワーカー事務所SURVIVE 代表ソーシャルワーカー等も務める。

◆講師紹介〈インフォーマルケアの立場から〉

荒井 和樹氏

NPO法人全国こども福祉センター代表

児童福祉施設で在職中、公的福祉の枠組みから外れる子ども・若者と出会い、支援の重複や機会の不平等に直面する。子どもたちを支援や保護の対象(客体)として捉えるのではなく、課題解決の主体として迎え、2012年に全国こども福祉センターを設立。2013年に法人化。繁華街やSNSでの声かけ、フィールドワークを重ねながら、1万6千人以上の子ども・若者に活動できる環境を提供。同法人理事長、日本福祉大学・椋山女学園大学非常勤講師。

〈第2部〉14:30～16:00 グループワークでの意見交換

2021年3月13日(土)13:00～16:00

* Zoomミーティングによるオンライン開催 *

市民講座/地域創り担い手学習会は、2016年度より、社会的孤立を生まない地域をめざして実践する皆さんの学びの場として、また、つながりを拓ける場として開催してきました。

明治学院大学社会学部付属研究所
主催より企画趣旨です

コロナ禍と若者支援

～いま、若者と家族に何が起きているか～

●2020年1月16日に国内での新型コロナウイルス感染が確認されて以降、その脅威は未だ衰えることなく、解雇や雇止め・収入減少による生活困窮者を著しく増加させています。また、コロナ禍の長期化は、非正規雇用で働く人々の仕事を削り、とりわけ、ひとり親世帯や単身の若年層の経済基盤を圧迫しています。そもそもが、不安定・低賃金な非正規での雇用形態に加え、コロナ禍による就労時間の短縮は、より不利な、あるいはより不利益を被りやすい境遇におかれている人々の生活困難をさらに拡大させているのです。また同時に、こうした経済的な問題は、孤独や孤立といった精神面の問題をも顕在化させているといわれています。

●現在のこうした社会状況を鑑み、2020年度の市民講座/地域創り担い手学習会は、コロナ禍における「若者問題」を取り上げます。親の失職・減収といった事態は、子である若者の暮らしにも波及し、その学校生活に深刻な影響を及ぼしています。たとえば、家計を補う労働力として夜間のアルバイトを続けている学生は、その身体的・精神的疲弊により、あたりまえに学ぶ権利を奪われています。また、学費問題による中退などの事例も報告されています。さらに、養護施設から社会に自立していく若者たちのなかには、働きたくても働く場所を得られず、住むところを追われる状況に追い込まれている方たちもいます。

●市民講座では、いま、若者支援の現場で何が起きているのかを、第一線で相談活動をなさっているソーシャルワーカーのお二人（*フォーマルケアの立場から：県立高校スクールソーシャルワーカー、*インフォーマルケアの立場から：子ども支援NPO法人）からうかがいます。そして、関係諸機関や地域活動のリーダーの方たちと若者支援をめぐる状況をシェアし、問題意識を共有しながら、地域でどのような取り組みが可能か、一緒に考えて参りたいと思います。

- (1) 開催日時 **2021年3月13日(土) 13:00～16:00**
- (2) 会場 **明治学院大学白金キャンパスを発信地とするオンライン研修会
(大学住所/東京都港区白金台1-2-37)**
- (3) 対象 **地域活動家・ボランティア等、本テーマに関心のある市民・学生**
- (4) 参加費 **かかりません(第1部・第2部を含む)。**
- (5) 申込方法 **2021年2月13日(土)より、申込受付を開始いたします
締め切り日:2021年3月6日(土)午後5時**

※①氏名、②所属団体名、③所属先の所在地、④Eメールアドレスを記入し、Eメールで下記へお申込みください。折り返しZOOM招待URLをお送りします。

<詳細・申込先>

明治学院大学社会学部付属研究所

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

Eメール: issw@soc.meijigakuin.ac.jp

TEL:03-5421-5204・5205 FAX:03-5421-5205

明治学院大学法学部グローバル法学科

SDGs リレー模擬授業

オンライン開催【無料】

明治学院大学法学部グローバル法学科では、サステナブルな社会の担い手として、「法」に軸足を置き、環境や時代の変化に対応できるグローバルな人材の育成をめざしています。

グローバル法学科の特色ある教育内容を知っていただくために、4人の教員がそれぞれの専門分野とSDGsとのかかわりをテーマに、Zoomミーティングによるオンライン模擬授業を行います。

2022年 1/29(土) 2/5(土) 2/12(土) 2/19(土)

全4回 土曜開催 14:00-14:45 先着300名

オンライン開催
事前申込制

申込期間 ~1/23(日)まで

ZoomのURLは、グローバル法学科留学オフィスから、開催日前日までにメールでご連絡いたします。

<https://forms.office.com/r/yPKU7e7sHM>



1/29(土) 陸の豊かさと気候変動から
ワイン法を考える
蛭原健介 教授

2/5(土) ESG投資と気候変動
阿部 満 教授

2/12(土) 海の生物資源の保全と
持続的な利用
鶴田 順 准教授

2/19(土) SDGsと国際私法
申 美穂 准教授

明治学院大学法学部 グローバル法学科
<https://mgulaw.jp/global/>

白金キャンパス 〒108-8636 東京都港区白金台 1-2-37
横浜キャンパス 〒244-8539 神奈川県横浜市戸塚区上倉田町 1518

お問い合わせ

【グローバル法学科留学オフィス】

E-mail: global@law.meijigakuin.ac.jp

【入学インフォメーション】

Tel 03-5421-5151

月曜～金曜 9:00～16:00

土曜 9:00～12:00 (年末年始・祝日除く)

明治学院大学 秋学期 2021 公開セミナー

新しい共生を考える

— ジェンダーが照らす社会の未来 —

参加無料

オンライン開催

要事前申込み

ジェンダーフリー、LGBT、同性婚など、これらの用語を目にする機会が増えてきています。社会生活の「基本単位」である「家族」「家庭」が大きな変貌を遂げている現在、「男らしさ」「女らしさ」はもはや「禁句」？「男」「女」、これまで「当然」「自然」と思ってきた社会のありかたについて、法学の専門家と共に捉え直し、日本社会の新しい共生を考えていきます。また、アフガニスタンなど世界における女性への暴力にも目を向け、国際平和への関わり方を考えていきたいと思えます。

11/9・16・23・30・12/7

全5回 火曜開催 15:15-16:45

受講 100名 ※本年度はオンライン開催のみです。
ご来場での聴講はできません。

パソコン、スマホ、タブレットでご視聴いただけます

オンライン開催
事前お申し込み先

<https://forms.office.com/r/1vTPTT0Wkg>

URL、QRコードからお申し込みください。
(詳しくは裏面をご覧ください。)



<申込期間> 10/4(日)～受講日まで

【お問い合わせ先】

明治学院大学 国際学部附属研究所

TEL.045-863-2267

※土日祝除く 平日 10:30-16:30

第1回 11月9日(火)

ジェンダーの視点から
憲法と平和をめぐる問題を考える

室蘭工業大学教授 清末 愛砂氏

第2回 11月16日(火)

家族とジェンダーをめぐる中国の法と社会

北海道大学法学研究科研究員 李 妍淑氏

第3回 11月23日(火)

別姓婚の選択肢を求める意味
～たかが名前、されど名前～

弁護士・第二次夫婦別姓訴訟
弁護団事務局長 野口 敏彦氏

第4回 11月30日(火)

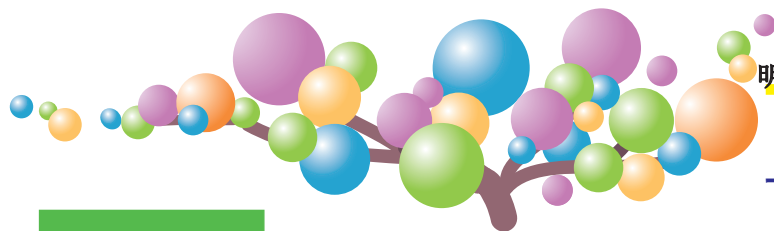
労働現場におけるセクシュアルハラスメント

弁護士・旬報法律事務所パートナー 新村 響子氏

第5回 12月7日(火)

人権の視点から考える多様な性のあり方

青山学院大学教授 谷口 洋幸氏



明治学院大学 秋学期 2021 公開セミナー

新しい共生を考える —ジェンダーが照らす社会の未来—

講師紹介

室蘭工業大学教授 清末 愛砂氏 (きよすえ あいさ)

1972 年生まれ。山口県周南市出身。現在、室蘭工業大学大学院教授。大阪大学大学院助手、同助教、島根大学講師、室蘭工業大学大学院准教授を経て、2021 年 6 月より現職。専門は憲法学、家族法、ジェンダー法学、アフガニスタンにおけるジェンダーに基づく暴力。近著として、『北海道で考える < 平和 >—歴史的視点から現代と未来を探る』(共編著、法律文化社、2021 年)、『ペンとミシンとヴァイオリン—アフガン難民の抵抗と民主化への道』(寿郎社、2020 年) などがある。

北海道大学法学研究科研究員 李 妍淑氏 (り けんしゅく)

2001 年に来日、2013 年に北海道大学により博士(法学)学位取得。同大学大学院法学研究科助教、講師を経て、現在、同研究科協力研究員。専門は比較法(家族法)、ジェンダー法。近著に「中国家族法(1)~(13・完)」(戸籍時報所収)、「ジェンダー視点からみる有責配偶者の離婚請求—最判昭和 62 年 9 月 2 日判決を中心に」(亜細亜女性法学 17 号所収)、「中国のジェンダー法政策推進過程における婦女聯合会の役割」(北大法学論集所収) などがある。

弁護士・第二次夫婦別姓訴訟弁護団事務局長 野口 敏彦氏 (のぐち としひこ)

1981 年長崎県生まれ。2004 年早稲田大学法学部卒業、2006 年弁護士登録。現在、中島・宮本・溝口法律事務所所属。2019 年に関東弁護士会連合会高齢者・障がい者に関する委員会副委員長兼ホームロイヤー部長就任。夫婦別姓訴訟弁護団の一員として、また、ひきこもり支援のための専門家団体である「OSDよりそいネットワーク」の顧問として、「多様な生き方」が認められる社会の実現に尽力している。

弁護士・旬報法律事務所パートナー 新村 響子氏 (にいむら きょうこ)

1980 年生まれ。2002 年一橋大学法学部卒業、2005 年弁護士登録。現在、旬報法律事務所パートナー。「東和システム名ばかり管理職残業代事件」をはじめ、労働者側で労働事件を数多く担当。東京都労働相談情報センター民間労働相談員、東京都ウィメンズプラザ法律相談員等も務めている。著作として『実務に効く 労働判例精選(第二版)』(有斐閣、2018 年、共著)、「パワハラ防止法の動向と課題」(社会政策第 13 巻第 1 号、2021 年) など多数ある。

青山学院大学教授 谷口 洋幸氏 (たにぐち ひろゆき)

中央大学大学院博士後期課程修了、博士(法学)。現在、青山学院大学法学部教授。日本学術会議連携会員、ジェンダー法学会理事など。国際人権法における LGBTQ+ の人権保障の研究を中心に、周縁化されたジェンダー/セクシュアリティと法政策のあり方について研究している。主編著に『LGBT をめぐる法と社会』(日本加除出版・2019)、『性的マイノリティ判例解説』(信山社・2011) などがある。

事前申込方法

Step1

- ①表面 URL にアクセス
- ②スマホで QR コードを読み取る
- ③Web を検索、公開セミナーのページから参加申込

 明学 国際付属 2021 セミナー

いずれかで申込フォームに入り
必要事項を入力して送信する。

Step2

お申し込み後、入力いただいたメールアドレス宛に「登録完了メール」が届きます。
1 週間以内にメールが届かない場合は、国際学部付属研究所までご連絡ください。

Step3

毎回、開講日の数日前にメールが届きます。そのメール内の参加 URL をクリックすると参加できます。

※ご記入いただいた個人情報は本セミナーの実施目的以外には使用いたしません。

[Home](#) > イベント > シンポジウム > 2021年度国際シンポジウム :

Home
研究所について
所員紹介
研究活動
イベント
出版・刊行物

明治学院大学

明治学院大学国際学部

明治学院大学図書館

イベント

2021年度 国際シンポジウム

テーマ 「兩岸関係と東アジアの平和」
'Cross-Strait Relations and Peace in East Asia'

台湾海峡を挟んで、中国大陸と台湾双方の相互不信が高まっている。アメリカ軍艦の台湾海峡通過、南シナ海における各国の軍事演習など、東アジアにおける力の誇示がかつてなく頻繁になってきている。海峡兩岸は戦火を交えることがあるのか、兩岸関係の安定化における日本の役割は？ 中国大陸、台湾、日本、アメリカなどの専門家が集い、東アジア地域の平和を考える。

無事終了いたしました。多数のご参加ありがとうございました。

●開催日時 2022年3月12日（土） 9時30分～12時10分（最大12時30分）

●Zoomウェビナーによるオンライン開催（無料）

●事前申し込みが必要です。下記URLよりお申し込みください。

https://zoom.us/webinar/register/WN_XOgbJlFFQYK3I9sCoD4i-w

●申込期間： ～開催日まで

<ご参加方法 >

- ①お申し込み後、登録完了メールが届きます。
- ②シンポジウム当日、参加URLをクリックしてご参加ください。

※ご記入いただいた個人情報は本シンポジウムの実施目的以外には使用いたしません。

〈プログラム〉

9:30	挨拶	孫占坤（明治学院大学 国際学部付属研究所長）
9:35-9:40	開会挨拶	阿部浩己（明治学院大学 国際学部長）
Session1	「兩岸関係の構造を理解する」 司会：孫占坤（明治学院大学 国際学部付属研究所長）	
9:40-10:15	基調講演	Quansheng Zhao（American大学教授、米国ワシントン） 『『台湾問題』の歴史と構造』
10:15-10:30	コメント	石井 明（東京大学名誉教授）
休憩5分		
Session2	「台湾海峡の平和を築く」 司会：朱建栄（東洋学園大学教授・華人教授会元代表） 挨拶、パネリスト紹介	
10:40-11:00	報告 1	『『一つの中国』論と米中関係』 Zhiqun Zhu（Bucknell 大学教授、米国ペンシルバニア）
11:00-11:20	報告 2	『台湾社会から見る『兩岸関係』』 Alexander Chieh-cheng Huang（淡江大学戦略研究所助教授）
11:20-11:40	報告 3	『兩岸関係の安定化と日本の役割』 泉川友樹（沖縄大学地域研究所特別研究員）
11:40-12:10	ディスカッション	
12:10	閉会挨拶	孫占坤

※報告者は変更になる場合があります。予めご了承ください

→参加者プロフィールはこちら

▶ 問合せ先

国際学部付属研究所 TEL. 045-863-2267（受付時間：平日 10時半-16時半）

Email: frontier(at)k.meijigakuin.ac.jp ※ (at) は @ に置き換えて下さい。

ABOUT US
PRIMEについてPEACE
EDUCATION
平和教育PUBLICATIONS
出版物PRIME on
CAMPUS
学生との共同企画LIBRARY
ライブラリーACTIVITIES
プロジェクト紹介

ホーム > イベント > 【PRIME主催「世界難民の日」企画・公開オンラインセミナー】ジェノサイド後のルワンダ難民、なぜ「母国」への帰還を拒否するのか



EVENT

イベント情報

全てのイベント

2022年度

2021年度

2020年度

2019年度

2018年度

2017年度

2016年度

2015年度

2014年度

2013年度

2012年度

オンラインセミナー

【PRIME主催「世界難民の日」企画・公開オンラインセミナー】ジェノサイド後のルワンダ難民、なぜ「母国」への帰還を拒否するのか

開催概要

講師 : 米川正子、橋本直子 言語 : 日本語 参加申込 : 要事前申込、参加無料

日時 : 2020.07.03[金] 18:00~20:00 場所 : オンライン (Zoom)

* 新型コロナウイルス感染症の影響により、開催を延期とさせていただいておりました本セミナーですが、オンラインでの開催が決定いたしました！

Post-Genocide Rwandan Refugees

Why They Refuse to Return 'Home': Myths and Realities

(2019年12月、Springerより出版 <https://www.springer.com/jp/book/9789811067556>)

1994年のジェノサイド中・後、200万人の難民を生んだルワンダ。ルワンダ政府とUNHCRは、ジェノサイド直後から今日まで、難民の帰還を促進し、時には強制帰還もさせました。現在、国は安定し、平和になったと言われている一方、これまで大多数の難民は帰還を拒否し続けてきました。一般人だけでなく、カガメ現大統領の元側近だった政府関係者までもが国を離れています。なぜでしょうか？

本セミナーでは、難民の解決策において最も望ましいとされる本国への自主帰還、そして難民地位の終了やノン・ルフールモン原則（追放及び送還の禁止）の難民政策だけでなく、ルワンダのジェノサイドと難民の関係、そして現在も続くコンゴの紛争などに関する多くの説や誤解・誤報を明らかにし、理解を深めることを願っています。

2020年7月3日(金) 18:00~20:00

オンライン (Zoom) 開催

* 定員300名 (申込先着順)

* 要事前申し込み

※お申込みいただいた方にメール配信しております(7月2日11:00時点)。

何通かメール配信エラーがありましたので、届いていない方は個別にお問い合わせください。

* 参加申し込みは7月1日(水)中までをお願いいたします

※申し込み受付終了しました。参加をご希望の方は、お手数ですが個別にお問い合わせください。

* 参加無料

PRIME

米川正子（著者、筑波学院大学経営情報学部准教授、元UNHCR職員、PRIME研究員）

コメンテーター：

橋本直子（一橋大学大学院社会学研究科准教授、ロンドン大学高等研究院難民法イニシアチブ リサーチ・アフィリエイト）

司会：

東澤靖（明治学院大学法学部グローバル法学科教授、PRIME所員）

主催：明治学院大学国際平和研究所（PRIME）

お問い合わせ先

明治学院大学国際平和研究所（PRIME）

■ TEL:03-5421-5652 ■ FAX:03-5421-5653

■ E-MAIL : prime@prime.meijigakuin.ac.jp

■ URL : http://www.meijigakuin.ac.jp/~prime

または、米川正子:yonekawa@tsukuba-g.ac.jp



ABOUT US | PRIMEについて

- 所長からのメッセージ
- PRIMEの活動とは
- 沿革
 - 歴代所長
- 役員・スタッフ
- 声明文

PRIME on Campus | 学生との共同企画

- Café du PRIME

PEACE EDUCATION | 平和教育

- PRIMEの一般公開科目

ACTIVITIES | 研究活動とその記録

- プロジェクト紹介

PUBLICATIONS | 出版物

- 『PRIME』（紀要）
- 『南を考える』
- 『PRIME Occasional Papers』
- 『平和研双書・Occasional Paper Series』

LIBRARY | ライブラリー

- バグウォッシュ・ライブラリー
- 平和・共同ジャーナリスト基金（PCJF）ライブラリー

Contact Us | お問い合わせ

白金キャンパス

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

本館 9階

TEL: 03-5421-5652

FAX: 03-5421-5653

開室時間: 平日10:00~18:00

横浜キャンパス

〒244-8539 神奈川県横浜市戸塚区上倉田町1518

8号館 3階

TEL: 045-863-2203

FAX: 045-863-2205

開室時間: 平日10:00~18:00

Access

Campus Map

Access

Campus Map

E-MAIL: prime[at]prime.meijigakuin.ac.jp “[at]”部分を半角の“@”に変更してメールをお送りください。

大学TOP

所員専用

Copyright© PRIME All Rights Reserved.



ホーム > イベント > 【PRIME共催シンポジウム】開国の前線に立つ女性たち～近代の性売買におけるインターナショナルリティ～



EVENT

イベント情報

全てのイベント	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度
2017年度	2016年度	2015年度	2014年度	2013年度	2012年度

シンポジウム

【PRIME共催シンポジウム】開国の前線に立つ女性たち～近代の性売買におけるインターナショナルリティ～

開催概要

講師：松井洋子（東京大学）、茶園敏美（京都大学）、水谷智（同志社大学）、大原関一浩（西南学院大学）、貴堂嘉之（一橋大学）、蔭木達也（慶応義塾大学）、嶽本新奈（明治学院大学）

言語：日本語 **参加申込**：要事前申込、参加費：無料

日時：2020.10.24[土] 10:30～17:00 **場所**：オンライン（Zoomウェビナー）

2020年度ジェンダー史学会会員企画シンポジウム

開国の前線に立つ女性たち

近代の性売買におけるインターナショナルリティ

- 日時：2020年10月24日（土）10:30～17:00
- 場所：Zoomウェビナー
- 参加費：無料
- 申し込み：要 以下のフォームから参加申込をお願いします。
<https://forms.gle/qUeXv6Wsnvw4bLG67>
- 申し込み締切：10月20日（水）
- 連絡先：企画担当 蔭木／嶽本 gh2020kikaku@gmail.com

共催：ジェンダー史学会

お茶の水女子大学大橋史恵研究室

明治学院大学国際平和研究所（PRIME）

当日プログラム

- 第一セッション：海に向こうから極東へ 日本女性を買春する越境者
松井洋子（東京大学） 「長崎と丸山遊女 ― 異文化接触の場と売買春」
茶園敏美（京都大学） 「占領地女性とGIとの親密性と占領軍の性病対策 ― フィリピン、韓国、沖縄、日本の事例から」
蔭木達也（慶応義塾大学） 「日本女性史から見た「売淫外交」の起源と展開 ― 高群逸枝『女性の歴史』を中心に」

▼第一セッション：アジア・太平洋地域におけるインターナショナルな性売買の諸相

水谷智（同志社大学） 「英領インドにおける植民地的遭遇」と女性たち ― 法・道徳・境界」

大原関一浩（西南学院大学） 「ハワイにおける売買春の歴史と日本人」

嶽本新奈（明治学院大学） 「マレーシアにおける日本人女性の経験 ― ある「からゆきさん」の生涯をてがかりに」

●全体討論

討論者：貴堂嘉之（一橋大学） 進行役：嶽本・蔭木

開催趣旨

日本の芸妓たちは、海外からの買春客を相手にすることで開国の前線にいた女性であった。それは政府の外交においても重要な政策として位置付けられていた。並行して、売春のために海を渡った女性たちもいた。彼女たちは出身地の貧困や家族の事情などを背景に、身一つで海外の娼館へ入っただけでなく、そこから新たな国際的交流を生み出していった。このような、インターナショナルな性売買をめぐる歴史は、一国を中心とした歴史叙述では捉え難く、また結婚とは異なり記録にも残ることが少ないが、その歴史は国策や外交の諸相にも影響を与え、国家間・地域間の関係の非対称性をも表象する。

インターナショナルな性売買の諸相は、日本及びアジアの性をめぐる歴史における重要な一面である。本シンポジウムは、国を超えた性売買の歴史を研究する多様な論者を迎えて議論することを通じ、近代以降の女性史を「家族」や「婚姻」とは別の切り口から書き換えることを目指す。

開催次第

10:00 開場

10:30 開会・趣旨説明（蔭木）

10:45-12:15 第一セッション（進行役：嶽本）

「海の方こうから極東へ 日本女性を買春する越境者」

12:15-13:30 ランチタイム

13:30-15:00 第二セッション（進行役：蔭木）

「アジア・太平洋地域におけるインターナショナルな性売買の諸相」

15:00-15:15 コーヒーブレイク

15:15-16:15 全体討論（進行役：嶽本・蔭木）

16:15-16:45 会場質疑

17:00 閉会

ジェンダー史学会について

ジェンダー史学会は、人類の歴史にかかわる諸学問領域をジェンダーの視点から深く研究するための学際的研究団体として設立された学会です。

学会の設立趣意書には「私たちは、日本・アジア・アフリカ・欧米等々世界の諸地域をフィールドとして研究に従事しております。この地域という横軸を歴史という縦軸とクロスさせることにより、ジェンダー研究は、国際性ならびに地域性を合わせもち、比較史の視点からも課題の究明に取り組むことができると考えています。さらに私たちは、こうした研究成果を、義務教育や高等教育そして社会教育の場に十分還元し生かせるような試みも積極的に進めていきたいと思っております。」と記されております。本シンポジウムもこの理念に寄与すべく若手の学会会員により企画、運営されました。

学会の詳細については、Webサイトをご覧ください。<http://ghaj.jp/>

お問い合わせ先

企画担当 蔭木／嶽本 gh2020kikaku@gmail.com

または

明治学院大学国際平和研究所（PRIME）

■TEL:03-5421-5652 ■FAX:03-5421-5653

■E-MAIL : prime@prime.meijigakuin.ac.jp

■URL : <http://www.meijigakuin.ac.jp/~prime>

5-3

難民キャンプで暮らしてみたら

映画上映&トーク

監督：クリス・テンプル、ザック・イングラシー / 製作国：アメリカ / 2015年 / 75分 / ドキュメンタリー

Salam Neighbor <あらすじ>

2人のアメリカ人青年の制作チームが、シリア難民が暮らすヨルダンのザータリ難民キャンプでの滞在を許可された。キャンプ内のテントで1カ月生活し、テントを張ったり配給に並んだりする難民の日常生活を体験。「隣人」たちとの日々の交流から見てきたのは、トラウマを抱えながらも、自分にできることを見出し、平和を求めて懸命に生きる一人ひとりの姿だった。キャンプの外で暮らす8割の難民たちの生活についても知りたいと、近隣の町で暮らしている母子家庭も訪問。原題にある「Salam」とは、アラビア語で「平和」という意味を含むあいさつの言葉。

一般公開
参加無料
要申込

日時



☆オンライン白金祭企画☆

11月3日(祝) 14:00~17:00

トーク

上映終了後、日本の難民受け入れ状況、特に女性の受け入れに詳しい石川美絵子氏(日本国際社会事業団)をお迎えし、本学教養教育センターの長谷部美佳准教授とのトークセッションを行います。

会場

ZOOMを利用したオンライン開催 定員：200名(先着順)

申し込み方法：下記URLより参加申し込みください。

https://zoom.us/join/zoom/register/tJYkcOGuqzozjHdKvFf76GOsInFNv_vFkumzR



明治学院大学

www.meijigakuin.ac.jp

後援：国連 UNHCR 協会

問い合わせ先：

明治学院大学国際平和研究所 (PRIME)
〒108-8636 東京都港区白金台 1-2-37
TEL：03-5421-5652 (直通)
E-MAIL：prime@prime.meijigakuin.ac.jp



ホーム > イベント > 明治学院大学 白金祭企画 映画上映&トーク『難民キャンプで暮らしてみたら』



EVENT

イベント情報

全てのイベント	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度
2017年度	2016年度	2015年度	2014年度	2013年度	2012年度

上映会、トークセッション

明治学院大学 白金祭企画 映画上映&トーク『難民キャンプで暮らしてみたら』

開催概要

講師：石川美絵子氏、長谷部美佳氏 言語：日本語 参加申込：参加無料、要事前申込

日時：2020.11.03[火] 14:00~17:00 場所：オンライン（Zoom）

UNHCR WILL2LIVE Cinema 学校パートナーズ

明治学院大学 映画上映&トーク

2018年度からUNHCR難民高等教育プログラムに参加している明治学院大学では、UNHCR WILL2LIVE Cinema（旧:UNHCR難民映画祭）学校パートナーズ参加校として、ドキュメンタリー映画『難民キャンプで暮らしてみたら』の上映会を開催いたします。

今年度の企画は、初の試みとなるオンライン白金祭の企画として運営されることとなりました。

上映後、日本の難民受け入れ状況、特に女性の受け入れに詳しい石川美絵子さん（日本国際社会事業団）をお迎えし、本学教養教育センターの長谷部美佳准教授とのトークセッションも併せて開催いたします。

一般公開のイベントとなります。ぜひお申込みの上、ご参加ください。

■日時：2020年11月3日（火・祝）14：00～17：00

■会場：ZOOMを利用したオンライン開催

■参加費：無料

■事前申し込み：要 以下のURLよりお申込みください

https://zoom.us/meeting/register/tJYkcOGuqzozjHdKvFf76GOsInFNV_vFkumzR

※参加対象者は、映画の権利の関係上、日本国内在住者のみとなります。

海外在住の方は申し訳ございませんが、ご参加いただけませんので、ご注意ください。

★上映作品：『難民キャンプで暮らしてみたら』

http://unhcr.refugeefilm.org/2019/film_salam-neighbor.html

原題：Salam Neighbor

監督：クリス・テンブル、ザック・イングラシー

製作国：アメリカ

製作年：2015年

上映時間：75分

カテゴリー：ドキュメンタリー

★トークセッション

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

長谷部美佳（教養教育センター教員、PRIME所員）

<タイムテーブル>

- 14:00～14:05 開会挨拶・趣旨説明
14:05～15:25 ★映画上映『難民キャンプで暮らしてみたら』
15:25～15:35 休憩
15:35～16:35 ★トークセッション
16:35～16:55 質疑応答
16:55～17:00 閉会挨拶

- 主催：明治学院大学
■後援：国連UNHCR協会

[チラシPDF](#)

お問い合わせ先

明治学院大学国際平和研究所（PRIME）

- TEL：03-5421-5652 ■FAX：03-5421-5653
■URL：<http://www.meijigakuin.ac.jp/~prime/>
■E-MAIL：prime@prime.meijigakuin.ac.jp

PRIME International Peace Research Institute
Meiji Gakuin University

ABOUT US | PRIMEについて

- 所長からのメッセージ
- PRIMEの活動とは
- 沿革
 - 歴代所長
- 役員・スタッフ
- 声明文

PRIME on Campus | 学生との共同企画

- Café du PRIME

PEACE EDUCATION | 平和教育

- PRIMEの一般公開科目

ACTIVITIES | 研究活動とその記録

- プロジェクト紹介

PUBLICATIONS | 出版物

- 『PRIME』（紀要）
- 『南を考える』
- 『PRIME Occasional Papers』
- 『平和研双書・Occasional Paper Series』

LIBRARY | ライブラリー

- バグウォッシュ・ライブラリー
- 平和・共同ジャーナリスト基金（PCJF）ライブラリー

Contact Us | お問い合わせ

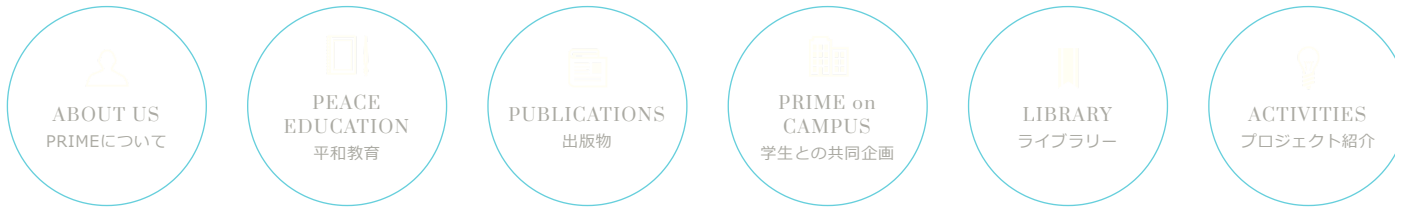
白金キャンパス

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37
本館 9階
TEL: 03-5421-5652 FAX: 03-5421-5653
開室時間: 平日10:00～18:00

横浜キャンパス

〒244-8539 神奈川県横浜市戸塚区上倉田町1518
8号館 3階
TEL: 045-863-2203 FAX: 045-863-2205
開室時間: 平日10:00～18:00

[Access](#)[Campus Map](#)[Access](#)[Campus Map](#)E-MAIL: [prime\[at\]prime.meijigakuin.ac.jp](mailto:prime[at]prime.meijigakuin.ac.jp) “[at]”部分を半角の“@”に変更してメールをお送りください。



ホーム > イベント > 【PRIME後援オンラインシンポジウム】女性国際戦犯法廷20年オンライン国際シンポジウム



EVENT

イベント情報

全てのイベント	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度
2017年度	2016年度	2015年度	2014年度	2013年度	2012年度

オンラインシンポジウム

【PRIME後援オンラインシンポジウム】女性国際戦犯法廷20年オンライン国際シンポジウム

開催概要

講師 : ウスティニア・ドルコポル (法廷首席検事)、阿部浩己 (日本検事団、明治学院大学教授・PRIME所員)、李娜榮 (イ・ナヨン/正義連理事長、韓国・中央大学教授)

言語 : 日本語、英語、朝鮮語 (日本語通訳あり) **参加申込** : 要事前申込 参加費 : 一般1500円、学生500円

日時 : 2020.12.12[土] 13:00~18:00 **場所** : オンライン (Zoomウェビナー)

女性国際戦犯法廷の判決／証言を未来にどう活かすか

～いまこそ性暴力不処罰と植民地主義を断ち切るために～

- 日 時 : 2020年12月12日(土) 13時~18時
- 視聴方法 : Zoom ウェビナーによるライブ配信。日本語通訳あり (英語・朝鮮語対応準備中)。
- 参加費 : 一般1500円、学生500円
- 申込締切 : 12月10日 13時まで
- 問合せ : houtei20@gmail.com
- 申し込み : Peatix→<https://peatix.com/sales/event/1634605/tickets>
チケット内容の詳細はこちらのリンクページ下部を参照ください。
* Peatixよりお申し込みいただけない場合は、次のリンクよりお申し込みください。
<https://forms.gle/q2aqt1so5q71bPb49>
* 取材申し込みの方はPeatixにて「取材 視聴チケット」をご購入ください。必要事項などお知らせします。

主催 : 女性国際戦犯法廷20周年実行委員会
共催 : 「戦争と女性への暴力」リサーチ・アクションセンター (VAWW RAC)
日本軍性奴隷制問題解決のための正義記憶連帯
日本軍「慰安婦」問題解決全国行動
後援 : 明治学院大学国際平和研究所 (PRIME)

今年12月、「日本軍性奴隷制を裁く2000年女性国際戦犯法廷」(以下、法廷)は20周年を迎えます。これを記念して、南北コリア・台湾・フィリピン・インドネシア・東ティモールの「慰安婦」・戦時性暴 カサバイバーや支援団体とともに、国際シンポジウムを開催します。

2000年法廷は、加害国日本のVAWW-NETジャパン（現VAWW RAC）の提唱と被害国の支援団体と協働により、被害女性64人と8カ国の検事団・女性 団体、グローバルな市民たちとともに、東京で開催されました。

法廷の目的は、被害者の正義を求める声に応え、日本軍性奴隷制への加害責任者を証拠に基づき国際法で裁き、現在もつづく性暴力「不処罰」の連鎖を断つためでした。さらに、その背景にある日本の侵略と植民地支配、つまり植民地主義を問うものでした。最終判決では、日本軍・政府が「人道に対する罪としての強かんおよび性奴隷制を実行した」と明確に認定しました。

20年後のいま、日本では「慰安婦」問題が解決せず、性暴力「不処罰」（＝無罪判決）や他民族へのヘイトスピーチが深刻です。一方、世界では性暴力を問う#MeToo運動、奴隷制と植民地主義を問い直す Black Lives Matter運動が展開されています。本シンポジウムは、法廷を振り返るとともに、各国のサバイバーの声を直接聞き、判決と証言を次世代につなぐまたとない貴重な機会です。ぜひご参加下さい。

プログラム

<第1部>

- ★2000年法廷ドキュメンタリー上映（ビデオ塾・池田恵理子作成）
- 基調講演：ウスティニア・ドルコボル（法廷首席検事）
「戦時性暴力の責任者処罰を提起した2000年女性国際戦犯法廷」
- 日本から：阿部浩己（日本検事団、明治学院大学教授・PRIME所員）
「2000年法廷から日本の植民地主義を問い直す」
- 韓国から：李 娜榮（イ・ナヨン／正義連理事長、韓国・中央大学教授）
「2000年法廷から性暴力を処罰した韓国#MeToo運動へ」
- ★法廷関係者メッセージ：判事・首席検事・日本・南北코리아・中国ほか

<第2部>

- ①日本軍「慰安婦」・戦時性暴力サバイバーの証言を聴く
南北코리아・中国・台湾・フィリピン・インドネシア・東ティモールの サバイバーたちの過去と現在の貴重な証言
- ②次世代からの提言～未来へつなぐ
フィリピン・台湾・韓国・日本の次世代たちの現在の活動と討論
- ★メッセージ：梁鉉娥「サバイバー証言を伝える意味」

【注意】

- *本シンポの撮影、録画、録音、画面のスクリーンキャプチャなどは禁止とさせていただきます。
- *申込みされた方は、期間限定で事後的に録画がご覧になれます。

Facebook: www.facebook.com/joseihoutei20

Twitter: @joseihoutei20

お問い合わせ先

- 問 合 せ : houtei20@gmail.com
- ※イベント内容に関する問い合わせはこちらのメールアドレスまでお願いします。

その他、ご質問等は、当研究所代表でもお受けいたします。

明治学院大学国際平和研究所 (PRIME)

- E-MAIL : prime@prime.meijigakuin.ac.jp
- URL : <http://www.meijigakuin.ac.jp/~prime>



ABOUT US | PRIMEについて

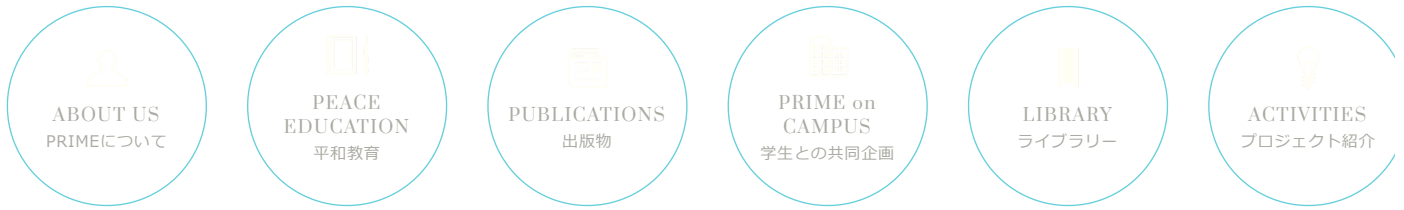
- 所長からのメッセージ
- PRIMEの活動とは
- 沿革
 - 歴代所長
- 役員・スタッフ

PEACE EDUCATION | 平和教育

- PRIMEの一般公開科目
- ACTIVITIES | 研究活動とその記録
 - プロジェクト紹介

PUBLICATIONS | 出版物

- 『PRIME』（紀要）
- 『南を考える』
- 『PRIME Occasional Papers』
- 『平和研双書・Occasional Paper Series』



ホーム > イベント > 【PRIME共催公開シンポジウム】「10年経って何ができるか、何をすべきか：シリアの現在、過去、未来」



EVENT

イベント情報

全てのイベント	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度
2017年度	2016年度	2015年度	2014年度	2013年度	2012年度

公開シンポジウム

【PRIME共催公開シンポジウム】「10年経って何ができるか、何をすべきか：シリアの現在、過去、未来」

開催概要

講師：青山弘之 言語：日本語 参加申込：参加費不要、事前申し込み要

日時：2021.02.27[土] 14:00～17:00 場所：ZOOM

シリア和平ネットワーク・明治学院大学国際平和研究所共催 公開シンポジウム 「10年経って何ができるか、何をすべきか：シリアの現在、過去、未来」

2011年チュニジアで発生した「アラブの春」と言われる反政府デモから波及するかたちで始まったとされるシリア危機は、今年3月に10年という節目を迎えます。危機発生以降、全土で約40～47万人以上の死者・約610万人以上の国内避難民が発生し、周辺諸国に約550万人以上の難民が流出したと報告されており、今世紀最悪の人道危機と言われる状況が続いています。

危機発生から10年、そんなシリアの現状は、日本ではほとんど報道されなくなり、私たちのシリアへの関心はどんどん薄れていってしまっているように感じます。現在のシリア人たちの声に我々国際社会はどれだけ耳を傾けているのでしょうか。

シリア和平ネットワークと明治学院大学国際平和研究所が共催する本シンポジウムでは、「10年経って何ができるか、何をすべきか」をテーマに、東京外国語大学の青山弘之教授に基調講演をいただきます。昨年12月に行われたアサド大統領の演説についての解説も交えながらこの10年を振り返る内容をご教示いただく予定です。その後、シリアの友人たちの現在の声もご紹介し、参加の皆さんにも開かれるかたちでのパネルディスカッション、そして質疑応答セッションを予定しています。

シリアについて、地球に生きる一市民として何ができるのか、何をすべきか。本シンポジウムが、改めて一緒に考えるきっかけになることを願っています。是非、ご予定調整いただきご参加ください。

日時：2021年2月27日(土) 14:00～17:00

場所：ZOOMを利用したオンライン開催

申し込み：要 ※2月25日(木)までにGoogleフォームよりお申込みください。

<https://forms.gle/WaZWFW66xgvT7uEr8>

お申込みいただきました方に、当日の参加方法等、詳細をご案内させていただきます。

参加費：無料

【プログラム】

(13:50 Zoom接続開始)

14:00 開会挨拶 シリア和平ネットワーク活動紹介

14:10 基調講演：「10年経って何ができるか、何をすべきか：シリアの現在、過去、未来」

／青山弘之氏（東京外国語大学教授）

14:50 シリアの人々の未来に向かう姿を紹介

↳シリア和平ネットワークメンバーの友人たちの生の声、特に将来の展望について、写真や動画メッセージを紹介

15:10 休憩（10分）

15:20 パネルディスカッション

↳「シリアの現在、過去、未来」について、シリア和平ネットワークメンバーを中心に参加者の皆さんにも開く形での自由討議を予定

16:20 全体を通した質疑応答

16:55 閉会挨拶

17:00 閉会

※パネルディスカッションの形式は、参加の皆さんに極力ご参加いただけるよう内容を計画中です。詳細は決定次第、追記させていただきます。

【登壇者紹介】

◆青山弘之氏

東京外国語大学教授

専門：現代東アラブ地域の政治、思想、歴史

著書：『シリア情勢：終わらない人道危機（岩波新書）』（岩波書店、2017年）他

「シリア・アラブの春顛末記（<http://syriaarabspring.info/>）」を運営

共催： シリア和平ネットワーク、明治学院大学国際平和研究所(PRIME)

お問い合わせ先

明治学院大学国際平和研究所（PRIME）

■ TEL：03-5421-5652 ■ FAX：03-5421-5653

■ URL：<http://www.meijigakuin.ac.jp/~prime/>

■ E-MAIL：prime@prime.meijigakuin.ac.jp

PRIME International Paper Research Institute
Meiji Gakuin University

ABOUT US | PRIMEについて

- 所長からのメッセージ
- PRIMEの活動とは
- 沿革
 - 歴代所長
- 役員・スタッフ
- 声明文

PRIME on Campus | 学生との共同企画

- Café du PRIME

PEACE EDUCATION | 平和教育

- PRIMEの一般公開科目

ACTIVITIES | 研究活動とその記録

- プロジェクト紹介

PUBLICATIONS | 出版物

- 『PRIME』（紀要）
- 『南を考える』
- 『PRIME Occasional Papers』
- 『平和研双書・Occasional Paper Series』

LIBRARY | ライブラリー

- バグウォッシュ・ライブラリー
- 平和・共同ジャーナリスト基金（PCJF）ライブラリー

Contact Us | お問い合わせ

白金キャンパス

〒108-8636 東京都 港区 白金台 1-2-37

本館 9階

TEL: 03-5421-5652 FAX: 03-5421-5653

開室時間: 平日10:00~18:00

横浜キャンパス

〒244-8539 神奈川県横浜市戸塚区上倉田町1518

8号館 3階

TEL: 045-863-2203 FAX: 045-863-2205

開室時間: 平日10:00~18:00

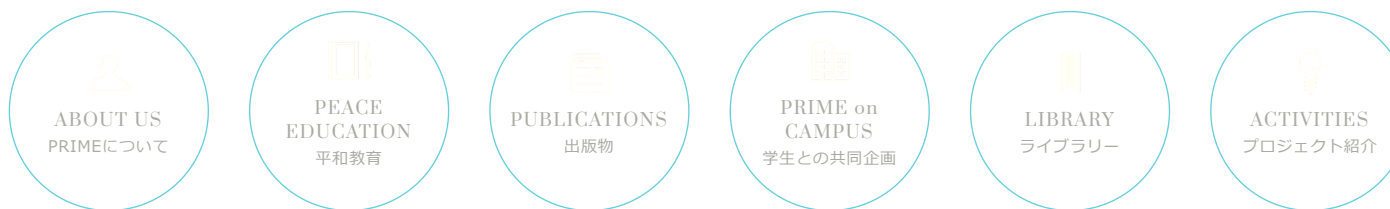
Access

Campus Map

Access

Campus Map

E-MAIL: prime[at]prime.meijigakuin.ac.jp "[at]"部分を半角の"@"に変更してメールをお送りください。



ホーム > イベント > UNHCR WILL2LIVE Cinema 学校パートナーズ 明治学院大学 映画上映&トーク『ナディアの誓い』



EVENT

イベント情報

全てのイベント

2022年度

2021年度

2020年度

2019年度

2018年度

2017年度

2016年度

2015年度

2014年度

2013年度

2012年度

上映会、トークセッション

UNHCR WILL2LIVE Cinema 学校パートナーズ 明治学院大学 映画上映&トーク『ナディアの誓い』

開催概要

講師 : 鳥山純子氏、高遠菜穂子氏 言語 : 日本語 参加申込 : 事前申込要、参加無料

日時 : 2021.03.16[火] 14:00~17:00 場所 : Zoom

UNHCR WILL2LIVE Cinema 学校パートナーズ 明治学院大学 映画上映&トーク

2018年度からUNHCR難民高等教育プログラムに参加している明治学院大学では、今年度もUNHCR WILL2LIVE Cinema (旧:UNHCR難民映画祭) 学校パートナーズ参加校として、毎年映画上映会を開催しています。本学での今年度第2回目の開催となる本会は、ドキュメンタリー映画『ナディアの誓い』をオンライン上映いたします。

上映後、鳥山純子さん(立命館大学准教授)と高遠菜穂子さん(イラク人道支援ワーカー)をお迎えし、運営に携わっている学生委員とのトークセッションを企画しています。

一般公開のイベントとなります。ぜひお申し込みの上、ご参加ください。

■日時 : 2021年3月16日(火) 14:00~17:00

■場所 : Zoom (オンライン)

■参加費 : 無料

■申し込み : 要 こちらのURLよりお申込ください。

https://zoom.us/webinar/register/WN_vkfuJ2qeTgCW44CGV5HhWA

※参加対象者は、映画の権利の関係上、日本国内在住の方に限ります。

海外在住の方は申し訳ございませんが、ご参加いただけませんので、ご注意ください。

上映作品 : 『ナディアの誓い』

<https://unhcr.will2live.jp/otwd2020-01/on-her-shoulders/>

アメリカ/2018年/95分/ドキュメンタリー

原題 : On Her Shoulders

監督 : アレクサンドリア・ボンバッハ

<タイムテーブル>

13:55 Zoomオープン

14:00~14:05 開会挨拶・趣旨説明

14:00~15:40 映画上映『ナディアの誓い』(30分)

15:40~15:50 休憩

15:50~16:40 トークゲスト：鳥山純子氏（立命館大学准教授）、高遠菜穂子氏（イラク人道支援ワーカー）

16:40~16:55 質疑応答

16:55~17:00 閉会挨拶・アンケート記入のお願い（*アンケートにご協力ください）

- 主催：明治学院大学
- 後援：国連UNHCR協会

ナディアの誓い_チラシ

お問い合わせ先

明治学院大学国際平和研究所（PRIME）

■TEL：03-5421-5652 ■FAX：03-5421-5653

■URL：<http://www.meijigakuin.ac.jp/~prime/>■E-MAIL：prime@prime.meijigakuin.ac.jp

ABOUT US | PRIMEについて

- 所長からのメッセージ
- PRIMEの活動とは
- 沿革
 - 歴代所長
- 役員・スタッフ
- 声明文

PRIME on Campus | 学生との共同企画

- Café du PRIME

PEACE EDUCATION | 平和教育

- PRIMEの一般公開科目

ACTIVITIES | 研究活動とその記録

- プロジェクト紹介

PUBLICATIONS | 出版物

- 『PRIME』（紀要）
- 『南を考える』
- 『PRIME Occasional Papers』
- 『平和研双書・Occasional Paper Series』

LIBRARY | ライブラリー

- バグウォッシュ・ライブラリー
- 平和・共同ジャーナリスト基金（PCJF）ライブラリー

Contact Us | お問い合わせ

白金キャンパス

〒108-8636 東京都 港区 白金台 1-2-37

本館 9階

TEL: 03-5421-5652

FAX: 03-5421-5653

開室時間: 平日10:00~18:00

横浜キャンパス

〒244-8539 神奈川県横浜市戸塚区上倉田町1518

8号館 3階

TEL: 045-863-2203

FAX: 045-863-2205

開室時間: 平日10:00~18:00

Access

Campus Map

Access

Campus Map

E-MAIL: [prime\[at\]prime.meijigakuin.ac.jp](mailto:prime[at]prime.meijigakuin.ac.jp) "[at]"部分を半角の"@"に変更してメールをお送りください。

大学TOP

所員専用

Copyright© PRIME All Rights Reserved.

映画上映
&
トーク

ナディアの誓い

-On Her Shoulders-

(c)RYOT Films

監督: アレクサンドリア・ボンバッハ/製作国: アメリカ/2018年/95分/ドキュメンタリー

あらすじ: ノーベル平和賞2018の受賞者、ナディア・ムラドはISIS (イスラム国) による虐殺と性奴隷から逃れた23歳のヤジディ教徒だ。彼女は、普通の女の子のように生きたいと思う時もある。しかし残された同胞のため、苦しみながらも国連などの国際的な舞台で証言を続け、やがては同郷の人々の希望の存在となっていく。

一般公開
参加無料
要申込

日時

3月16日(火) 14:00-17:00

トーク

上映後、鳥山純子さん(立命館大学准教授)、高遠菜穂子さん(イラク人道支援ワーカー)をお招きし、トークセッションを行います。

会場

Zoomにてオンライン開催
申し込みフォーム

<https://forms.gle/TZBCNsZbxxrgUGv38>



明治学院大学

www.meijigakuin.ac.jp

後援: 国連 UNHCR 協会

問い合わせ先:

明治学院大学国際平和研究所 (PRIME)
〒108-8636 東京都港区白金台 1-2-37
TEL: 03-5421-5652 (直通)
E-MAIL: prime@prime.meijigakuin.ac.jp



ホーム > イベント > UNHCR WILL2LIVE Cinema 学校パートナーズ 明治学院大学 映画上映&トーク『レフュジー 家族の絆』



EVENT

イベント情報

全てのイベント

2022年度

2021年度

2020年度

2019年度

2018年度

2017年度

2016年度

2015年度

2014年度

2013年度

2012年度

上映会、トークセッション

UNHCR WILL2LIVE Cinema 学校パートナーズ 明治学院大学 映画上映&トーク『レフュジー 家族の絆』

開催概要

講師 : 人見泰弘さん、久郷ボンナレットさん 言語 : 日本語 参加申込 : 事前申込要、参加無料

日時 : 2021.11.03[水] 14:00~17:00 場所 : ZOOM

UNHCR WILL2LIVE Cinema 学校パートナーズ 明治学院大学 映画上映&トーク

2018年度からUNHCR難民高等教育プログラムに参加している明治学院大学では、UNHCR WILL2LIVE Cinema (旧:UNHCR難民映画祭) 学校パートナーズ参加校として、毎年映画上映会を開催しています。

本学での今年度第1回目の開催となる本会は、ドキュメンタリー映画『レフュジー 家族の絆』を、オンライン白金祭(学祭)の企画として上映いたします。

上映後、移民・難民についてご研究されている武蔵大学准教授の人見泰弘さんと元カンボジア難民の久郷ボンナレットさんをお迎えし、運営に携わっている学生委員とのトークセッションを企画しています。

一般公開のイベントとなります。ぜひお申し込みの上、ご参加ください。

■日時 : 2021年11月3日(水) 14:00~17:00

■場所 : Zoom (オンライン)

■参加費 : 無料

■申し込み : 要 こちらのURLよりお申込ください。

https://zoom.us/webinar/register/WN_BHbErcpMT3aXk1F1kvgU9g

※参加対象者は、映画の権利の関係上、日本国内在住の方に限ります。

海外在住の方は申し訳ございませんが、ご参加いただけませんので、ご注意ください。

上映作品 : 『レフュジー 家族の絆』

<https://www.cinemo.info/96m>

イギリス/2018年/87分/ドキュメンタリー

原題 : Refugee

監督 : アレクサンダー・J・ファレル

<タイムテーブル>

13:55 Zoomオープン

14:00~14:05 開会挨拶・趣意表明

14:05~15:25 映画上映『レフュジール 家族の絆』(87分)

15:25~15:35 休憩

15:35~16:35 トークゲスト：人見泰弘さん(武蔵大学准教授)、久郷ボンナレットさん(元カンボジア難民)

16:35~16:55 質疑応答

16:55~17:00 閉会挨拶・アンケート記入のお願い(*アンケートにご協力ください)

■主催：明治学院大学

■後援：国連UNHCR協会

UNHCR WILL2LIVE Cinema 学校パートナーズ明治学院大学 チラシ

お問い合わせ先

明治学院大学国際平和研究所(PRIME)

■TEL: 03-5421-5652 ■FAX: 03-5421-5653

■URL: <http://www.meijigakuin.ac.jp/~prime/>■E-MAIL: prime@prime.meijigakuin.ac.jp

※当日の電話の問い合わせは都合上、受付られません。

メールのみの受付となりますのでご注意ください。

PRIME International Peace Research Institute
Meiji Gakuin University

ABOUT US | PRIMEについて

- 所長からのメッセージ
- PRIMEの活動とは
- 沿革
 - 歴代所長
- 役員・スタッフ
- 声明文

PRIME on Campus | 学生との共同企画

- Café du PRIME

PEACE EDUCATION | 平和教育

- PRIMEの一般公開科目

ACTIVITIES | 研究活動とその記録

- プロジェクト紹介

PUBLICATIONS | 出版物

- 『PRIME』(紀要)
- 『南を考える』
- 『PRIME Occasional Papers』
- 『平和研双書・Occasional Paper Series』

LIBRARY | ライブラリー

- バグウォッシュ・ライブラリー
- 平和・共同ジャーナリスト基金(PCJF)ライブラリー

Contact Us | お問い合わせ

白金キャンパス

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

本館9階

TEL: 03-5421-5652 FAX: 03-5421-5653

開室時間: 平日10:00~18:00

横浜キャンパス

〒244-8539 神奈川県横浜市戸塚区上倉田町1518

8号館3階

TEL: 045-863-2203 FAX: 045-863-2205

開室時間: 平日10:00~18:00

Access

Campus Map

Access

Campus Map

E-MAIL: [prime\[at\]prime.meijigakuin.ac.jp](mailto:prime[at]prime.meijigakuin.ac.jp) "[at]"部分を半角の"@"に変更してメールをお送りください。

レフュジー 家族の絆



©REFUGEE DOC LTD

監督:アレクサンダー・J・ファレル/製作国:イギリス/2018年/87分/ドキュメンタリー

[あらすじ]2011年から続くシリア紛争は数百万人もの難民を生み出していた。紛争が悪化するなか、シリアで暮らすアラリ一家はヨーロッパへの亡命を計画していた。しかし、父子がギリシャに到着した頃には国境は封鎖されていた。一家は果たしてドイツで到着を待つ母と再会できるのだろうか？

～オンライン白金祭企画～

一般公開
参加無料
要申込

日時… 11月3日（水）14:00～17:00

トーク… ・人見泰弘さん（武蔵大学准教授）
・久郷ポンナレットさん（元カンボジア難民）

会場… zoomにてオンライン開催
申込みフォーム↓



https://zoom.us/webinar/register/WN_BHbErpcMT3aXk1F1kvgU9g

明治学院大学

後援:国連UNHCR協会

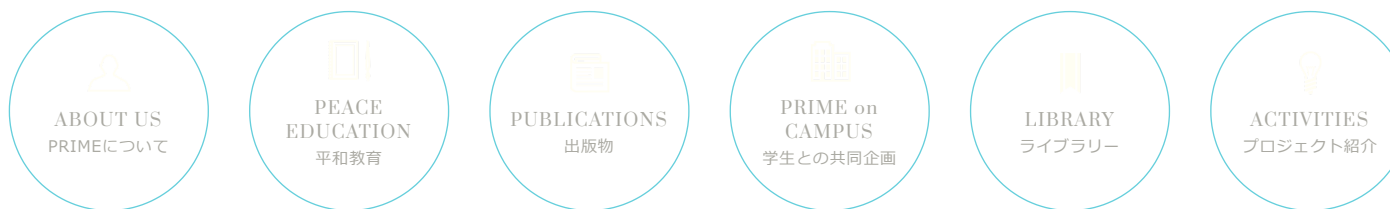
問い合わせ先:

明治学院大学国際平和研究所（PRIME）

〒108-8636東京都港区白金台1-2-37

TEL:03-5421-5652（直通）

E-mail:prime@prime.meijigakuin.ac.jp



ホーム > イベント > UNHCR WILL2LIVE Cinema 学校パートナーズ 明治学院大学 『女を修理する男』上映&トーク



EVENT

イベント情報

全てのイベント

2022年度

2021年度

2020年度

2019年度

2018年度

2017年度

2016年度

2015年度

2014年度

2013年度

2012年度

上映会、トークセッション

UNHCR WILL2LIVE Cinema 学校パートナーズ 明治学院大学 『女を修理する男』上映&トーク

開催概要

講師 : 華井和代氏、ジャンクロード・マスワナ氏 **言語** : 日本語、英語 (逐次通訳あり)

参加申込 : 事前申込要、参加無料

日時 : 2022.03.22[火] 14:00~17:30 **場所** : ZOOMウェビナー

UNHCR WILL2LIVE Cinema 学校パートナーズ 明治学院大学 映画上映&トーク

2018年度からUNHCR難民高等教育プログラムに参加している明治学院大学では、今年度もUNHCR WILL2LIVE Cinema 学校パートナーズ参加校として、映画上映会を開催しています。本学での今年度第2回目の開催となる本会は、ドキュメンタリー映画『女を修理する男』をオンライン上映いたします。

上映後、華井和代先生(東京大学未来ビジョン研究センター講師、NPO法人RITA-Congo共同代表)、ジャンクロード・マスワナ先生(立命館大学経済学研究科教授)をお迎えし、運営に携わっている学生委員とのトークセッションを企画しています。

一般公開のイベントとなります。ぜひお申し込みの上、ご参加ください。

■日時: 2022年3月22日(火) 14:00~17:30

■場所: Zoom (オンライン)

■参加費: 無料

■使用言語: 日本語、英語 (逐次通訳あり)

■申し込み: 要 こちらのURLよりお申込ください。

https://zoom.us/webinar/register/WN_QyGHvIDES4y30tcQ0dfA8Q

※参加対象者は、映画の権利の関係上、日本国内在住の方に限ります。

海外在住の方は申し訳ございませんが、ご参加いただけませんので、ご注意ください。

上映作品: 『女を修理する男』 WILL2LIVE Cinema 『女を修理する男』

ベルギー/2015年/112分/ドキュメンタリー

原題: La Colère d'Hippocrate

監督: ティエリー・ミシエル

<タイムテーブル>

13:55 Zoomオープン

14:00～14:05 開会挨拶・題目紹介

14:03～15:55 映画上映『女を修理する男』（112分）

15:55～16:00 休憩（5分）

16:00～17:25 トークゲスト：華井和代氏（東京大学未来ビジョン研究センター講師、NPO法人RITA-Congo共同代表）、ジャンク

ロード・マスワナ氏（立命館大学経済学研究科教授） ※逐次通訳あり

17:25～17:30 閉会挨拶・アンケート記入のお願い（*アンケートにご協力ください）

- 主催：明治学院大学
- 後援：国連UNHCR協会

女を修理する男_チラシ

お問い合わせ先

明治学院大学国際平和研究所（PRIME）

■TEL：03-5421-5652 ■FAX：03-5421-5653

■URL：<http://www.meijigakuin.ac.jp/~prime/>■E-MAIL：prime@prime.meijigakuin.ac.jp

ABOUT US | PRIMEについて

- 所長からのメッセージ
- PRIMEの活動とは
- 沿革
 - 歴代所長
- 役員・スタッフ
- 声明文

PRIME on Campus | 学生との共同企画

- Café du PRIME

PEACE EDUCATION | 平和教育

- PRIMEの一般公開科目

ACTIVITIES | 研究活動とその記録

- プロジェクト紹介

PUBLICATIONS | 出版物

- 『PRIME』（紀要）
- 『南を考える』
- 『PRIME Occasional Papers』
- 『平和研双書・Occasional Paper Series』

LIBRARY | ライブラリー

- バグウォッシュ・ライブラリー
- 平和・共同ジャーナリスト基金（PCJF）ライブラリー

Contact Us | お問い合わせ

白金キャンパス

〒108-8636 東京都 港区 白金台 1-2-37

本館 9階

TEL: 03-5421-5652 FAX: 03-5421-5653

開室時間: 平日10:00～18:00

横浜キャンパス

〒244-8539 神奈川県横浜市戸塚区上倉田町1518

8号館 3階

TEL: 045-863-2203 FAX: 045-863-2205

開室時間: 平日10:00～18:00

Access

Campus Map

Access

Campus Map

E-MAIL: [prime\[at\]prime.meijigakuin.ac.jp](mailto:prime[at]prime.meijigakuin.ac.jp) "[at]"部分を半角の"@"に変更してメールをお送りください。

『女を修理する男』

上映&トーク

UNHCR WILL2LIVE Cinema
学校パートナーズ 明治学院大学

一人の医師の勇気ある行動が世界を動かし、4万人以上の性暴力被害女性を治療した。

5-8



コンゴ人婦人科医デニ・ムクウェゲ医師の、
命がけの治療を追ったドキュメンタリー

監督：ティエリー・ミシェル／制作国：ベルギー／2015年／112分／ドキュメンタリー

- 日時 : 3月22日(火) 14:00~17:30
トーク : 上映後、ゲストをお招きし、トークセッションを行います。
ゲスト : 華井和代氏 (東京大学未来ビジョン研究センター講師・
NPO法人RITA-Congo共同代表)
ジャン-クロード・マスワナ氏 (立命館大学経済学研究科教授)
使用言語 : 日本語、英語 (逐次通訳あり)
会場 : ZOOMにてオンライン開催
申し込みフォーム↓

https://zoom.us/webinar/register/WN_QyGHvIDES4y3OtcQ0dfA8Q



明治学院大学

<https://www.meijigakuin.ac.jp>

後援:国連UNHCR協会

問い合わせ先:

明治学院大学国際平和研究所 (PRIME)

〒108-8636東京都港区白金台1-2-37

TEL:03-5421-5652 (直通)

E-mail:prime@prime.meijigakuin.ac.jp

「内なる国際化」プロジェクトから新刊書『多文化共生社会で何をを目指すのか』が出版されました！

2021年4月22日

ニュース

PickUp



「内なる国際化」プロジェクトの2019年度の事業成果をまとめた刊行物が出版されました。明治学院大学「『内なる国際化』に対応した人材の育成」プロジェクト編『**多文化共生社会で何をを目指すのか**—「内なる国際化」を持続可能な社会の観点から考える』(かんよう出版、2021年、¥1,100)です

今回は、恒例となった一連のシンポジウムのひと区切りとなる第5回シンポジウム「**多文化共生社会で何をを目指すのか**—「内なる国際化」を持続可能な社会の観点から考える」の報告を中心とした内容になっています。

多くの皆さんにお読みいただければ幸いです。(上の表紙画像をクリックしてAmazonのページへ！)

【目次】

はじめに 永野茂洋

第1部 プロジェクト報告

第1章 2019年度の活動報告 坂口緑

第2部 シンポジウム報告

第2章 大学が多文化共生するとき—浜松における静岡文化芸術大学の役割から考えること 池上重弘

第3章 トークセッション 「内なる国際化プロジェクト 学びの支援を振り返る」 矢崎理恵・野沢慎司・浅川達人

第4章 トークセッション 「内なる国際化プロジェクト」に参加して 安部夕音・村木優里・渡邊裕馬 聞き手：長谷部美佳

第5章 「多文化共生社会」から「持続可能な多文化共生社会」へ 高桑光徳

あとがき 坂口緑

この本は、『もうひとつのグローバリゼーション—「内なる国際化」に対応した人材の育成』(かんよう出版、2016年)および『外国につながる子どもたちと教育—「内なる国際化」に対応した人材の育成』(かんよう出版、2017年)、『多文化共生を学び合う 配慮と偏見のはざまで—「内なる国際化」に対応した人材の育成』(かんよう出版、2018年)、『多様な人の学びの保障—「内なる国際化」に対応した人材の育成』(かんよう出版、2019年)の続編にあたります。これらもあわせてお読みいただけたら幸いです。

朝鮮学校の今を知る動画作品『埼玉キムチ日記—共に生きる埼玉をめざして』を紹介します！

2021年6月9日

ニュース

PickUp

事務局メンバーの猪瀬がかかわる埼玉朝鮮学校60周年連帯プロジェクトが、埼玉朝鮮初中級学校の保護者が学校の財政を支えるために実施している、埼玉キムチ頒布会のムービーを作成し、YouTubeで公開しています。本学社会学科を卒業した写真家森田友希さんが撮影と編集を担当しています。

<https://www.youtube.com/watch?v=-8M3I-VV1No>

埼玉県は1982年から朝鮮学校に対して私立学校運営補助金を支給してきました。しかし、2010年度末に当時の知事が「財政上の問題」を理由に、補助金を打ち切りました。その後、県が財務上の「健全性について確認できた」とした後も、支給停止は続いています。支給停止は朝鮮学校の運営に打撃となり、教員の給与カットなどの対応を迫られています。そんななかで、保護者たちのボランティアによって頒布会は行われ、収益を学校に寄付しています。

このムービーでは頒布会のスタッフとなるオモニ、アボジたちの言葉とともに、キムチを買いにやってきた様々な方たちの言葉を記録しています。



このムービーを見て、民族学校の現状や、それを支える人たちの想い、そして日本社会の課題について考えていただければとおもいます。なお、更に詳しく知りたい人は、「誰もが共に生きる埼玉県を目指し、埼玉朝鮮学校への補助金支給を求める有志の会」のホームページ内にあるQ&Aをご覧ください。

<https://tomoni-saitama-koreanschool.org/faq/>

また、ムービー作成に関わった人たちのメッセージは以下をご覧ください。

<https://tomoni-saitama-koreanschool.org/2021/05/31/post-565/>

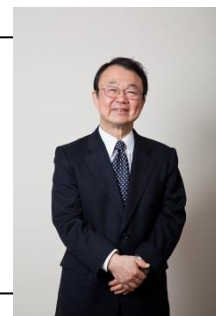
(文責 猪瀬浩平)

明治学院プラチナカレッジ（生涯学習講座）
「地域と共に育む子ども～子どもの最善の利益を目指して～」
11/6からオンラインで開催

明治学院大学は、2018年度より一般の方も参加できる生涯学習講座「明治学院プラチナカレッジ」を開校しており、2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大状況に伴い、大幅な予定変更となりましたが、11月6日よりオンラインで開講することとなりました。「地域と共に育む子ども～子どもの最善の利益を目指して～」をテーマに前学長の松原康雄名誉教授が講義を行います。

子どもは次代を担う大切な存在であり、家族と地域のなかで自らが主人公として成長発達を遂げていく存在です。本シリーズは、子どもの力を前提にしながら、まず地域での子育て支援について考えたいと思います。また、最も深刻な権利侵害である児童虐待の状況とその対応についても講義と現場からの報告とで理解を深め、我々が何をできるかを考えたいと思います。

（明治学院大学前学長・名誉教授 松原康雄）



どなたでも、どこからでも参加できる生涯学習講座です。豊かな学びの時間をお過ごしください。

ぜひ、本講座の告知および取材をご検討いただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

「明治学院プラチナカレッジ」
（生涯学習講座）

開講日	内容
11/6(金)	子どもや子育て家庭の状況
11/13(金)	児童虐待とその対応
11/20(金)	現場からの提言

■開講期間：2020年11月6日(金)～11月20日(金) <毎週金曜日 18:45～20:15>

■受講方法：オンライン（Zoomミーティング）

■コーディネータ・講師：松原康雄（前学長・名誉教授）

■受講料：3,600円（3コマ分）

※1コマ単位でのお申し込みは受け付けておりません。

※受講料は事前振込となります。

■募集人数：100名。どなたでも参加可能。要申込み。

■申込方法：E-Mailにて必要事項<氏名(フリガナ)、住所、電話番号、FAX番号、生年月日>を記入の上、お申込みください。

※受講料の入金確認後、メールにてZoomミーティングの招待URLをお送りいたします。

■受付期間：先着順

■お問合せ(申込先)：明治学院大学 総合企画室社会連携課 〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

(TEL) 03-5421-5247 (FAX) 03-5421-5387 (E-Mail) mpc@mguad.meijigakuin.ac.jp

https://www.meijigakuin.ac.jp/about/activities/regionalalliances/platinum_college/

掲載のお問合せは…明治学院大学 総合企画室広報課 担当：小川・圓道

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

Tel:03-5421-5165(直通) Fax:03-5421-5185

koho@mguad.meijigakuin.ac.jp <https://www.meijigakuin.ac.jp>

2021年度 明治学院プラチナカレッジ (春学期)

2018年度よりスタートした生涯学習講座「明治学院プラチナカレッジ」。コロナ禍のなかでも学びの機会を提供しつづけるため、オンライン(※Zoomミーティング)にて開講します。明治学院大学の名誉教授を中心とした講師陣が幅広い講座を提供します。155年以上の長い歴史と伝統を持つ明治学院で豊かな学びの時間をお過ごしください。

開講スケジュール

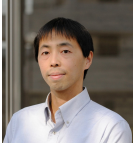


【第1シリーズ】

SDGsと地球環境への新たな取り組み

【開講日】 5月28日(金)、6月4日(金)、6月11日(金)

【開講時間】 18:45~20:15

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。それらのほとんどは「環境」と関係ある問題です。そこで第1シリーズでは、明治学院大学にある様々な「環境」の科目を担当されている先生に週替わりでご登壇いただきます。

開講日時	テーマ・講師
5月28日(金) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 有機農業を支える種苗基金の取り組み ■ 講師：林 公則(明治学院大学国際学部准教授) <p>一般の人々から寄付を募って、有機農業に向けた種苗を育種・登録し、それを誰もが使える形で提供するというのが、種苗基金の取り組みです。本講義では、種苗基金を紹介しつつ、社会を変革する手段として贈与が果たす役割を考えます。</p>
6月4日(金) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海洋生物資源の保全・利用とSDGs ■ 講師：鶴田 順(明治学院大学法学部准教授) <p>SDGsでは海の保全・持続可能な利用に関する目標が多数掲げられて、国連海洋法条約などの国際法を通じて目標を実現するとしています。この講義では海洋生物資源に焦点をあてて、その問題状況と改善・克服策についてみていきます。</p>
6月11日(金) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ つかう責任からパートナーシップへ ■ 講師：藤川 賢(明治学院大学社会学部教授) <p>SDGsの「つかう責任」は、「つくる責任」との連携とともに、途上国や貧困の課題との連携を求めています。ごみ減量などの個人的な行動から、見えにくい課題にも視野を広げる可能性について考えていきます。</p>

【第2シリーズ】



「あいだ」学“分離”から“つながり”へ

【開講日】 6月18日(金)、6月25日(金)、7月2日(金)

【開講時間】 18:45~20:15

「あいだ」という言葉について考えることを通して、自分自身を、社会を、世界を、新しい目で見てみよう。例えば、こう想像してみるのだ。「今だけ・金だけ・自分だけ」の仕事にとって代わる、「あいだ」をつなぎ、育てるような仕事を自由に創ったらどうだろう。人と人、人と自然との「あいだ」をどれだけ豊かにするかを基準とする経済をデザインしたら、どんな世界ができるだろう。

開講日時	テーマ・講師
6月18日(金) 6月25日(金) 7月2日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「あいだ」学入門 ■ 講師：辻 信一(明治学院大学名誉教授) <p>『「あいだ」の思想 セパレーションからリレーションへ』(大月書店刊)解題</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人と人、人と自然の「あいだ」を紡ぎ直す ■ 講師：辻 信一(明治学院大学名誉教授)

 	<p>映画特別試写「レイジーマン物語 タイの森で出会った"ナマケモノ"」</p> <p>■「あいだ」という言葉を活用して、世界を見直してみよう</p> <p>■講師：辻 信一(明治学院大学名誉教授) 高橋 源一郎(明治学院大学名誉教授)</p>
---	--

受講申込

対象	<p>一般の方</p> <p>※どなたでも受講いただけます。</p>
会場	<p>オンライン講座</p> <p>※予め、各自でZoomミーティングをインストールしてください。</p> <p>※対面講座は開講いたしません。</p>
受講料	<p>各シリーズ 3,600円</p> <p>※シリーズ単位でのお申込みとなります。1コマ単位でのお申込みは受付できません。</p> <p>※受講料のご納入は事前振込です。</p> <p>※教材費が別途かかる場合があります。</p>
申込手順	<p>【E-mailでお申込みの場合】</p> <p>次の事項を明記のうえ、明治学院大学総合企画室社会連携課 mpc@mguad.meijigakuin.ac.jp までお申込みください。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 氏名(フリガナ) ② 住所 ③ 電話番号(日中のご連絡が可能なもの) ④ 生年月日 ⑤ 受講を希望するシリーズ名 ⑥ (本学卒業生の場合)卒業生である旨を記載 <p>お申込み確認後、「受講料お振込みのご案内」をお送りいたします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受講料は「受講料お振込みのご案内」に記載の指定銀行口座にお振込みください。お振込み手数料はご負担願います。 2. 受講料は「受講料お振込みのご案内」の到着後1週間以内にお振込みください。開講4日前の時点でお振込みが確認できない場合、キャンセルとさせていただきます。 3. 振込明細書・利用明細書は、受講日まで保管してください。受講料のご入金確認後、E-mailでZoomミーティングのURLをお知らせします。
個人情報の取り扱いについて	<p>明治学院大学では、受講生の皆様の申込時における個人情報については、「学校法人明治学院個人情報保護基本規程」に沿って厳重に管理いたします。これらの個人情報は、明治学院大学の講座・セミナー等のご案内用としてのみ利用いたします。第三者には提供いたしません。</p>

お問合せ先

明治学院大学 総合企画室社会連携課

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

E-mail : mpc@mguad.meijigakuin.ac.jp

TEL : 03-5421-5247

受付時間 平日のみ9:30 - 12:00 / 12:45 - 16:00

関連情報

2020年度 明治学院プラチナカレッジ (白金キャンパス)


 MEIJI GAKUIN UNIVERSITY

オンライン講座

2021年度 明治学院大学公開講座

「コロナ禍とわたしたちの社会— パンデミックのなかで生きること」

COVID-19（新型コロナウイルス）感染症が世界的に猛威をふるい、私たちの社会生活に計り知れない影響を与えています。数多くの人々が職業活動や家庭生活に大きな変化を強いられ、さまざまな困難に直面させられています。他方、いま何が起きているのかを理解するためには、逆向きの因果関係も見逃すことはできません。ウイルスという、それ自体としては自然の産物としか言いようのないものが私たちの社会に何をもたらしたかを問うだけでなく、逆に私たちの社会や政治のあり方がどのようにしてこの事態を生み出したのかを問う必要があるのです。

これほど多くの人々が感染し、死に至り、多くの人が経済的・精神的打撃を受けたこのパンデミックは、結局は自然の猛威として甘受するほかにないものだったのか、それとも社会や政治のあり方が異なっていたならば、異なる結果がありえたのか。—こうした問いに答えるための手がかりを求めて、社会学部附属研究所では、この未曾有の事態を多角的に検証する連続講座を企画いたしました。

各分野の第一人者と言うべき講師陣のお話から、「私たちにとってCOVID-19とは何だったのか」を深く知るためのヒントが得られることを期待しています。

受講料：2500円（全5回）

企画：明治学院大学社会学部附属研究所

実施形態：オンライン形式（Zoomミーティング）

問い合わせ・申込み先

明治学院大学 総合企画室社会連携課 〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

TEL：03-5421-5247（平日9:00～16:00）E-mail：ykoukai@mguad.meijigakuin.ac.jp

各日13:30～15:30

日付	講演テーマ	講演者
10/9（土）	外国人労働者と コロナ禍以降の日本社会	望月優大 （ライター・編集者）
10/16（土）	新型コロナウイルス感染症 対策をめぐる倫理的な問題	杉本俊介 （慶應義塾大学 商学部准教授）
10/23（土）	感染症と人間社会 ：歴史から考える	小田中直樹 （東北大学大学院 経済学研究科教授）
10/30（土）	コロナ禍における 失業・困窮・自殺と社会保障 ：データから見えるものと見えないもの	安藤道人 （立教大学 経済学部准教授）
11/6（土）	コロナ禍における 子ども子育て支援	松原康雄 （本学名誉教授・ 前学長）



◀申込み、詳細はこちらへ

コンプライアンス

公益通報 >

学校法人明治学院
個人情報保護方針 >

公益通報

学校法人明治学院（以下、学院）は、公益通報のための窓口を設置し、「学校法人明治学院公益通報に関する規程」を制定して、公益通報に関する体制を整えています。

明治学院公益通報制度

学院は、公益通報者保護法（平成16年法律第122号）に基づき、不正行為の早期発見と是正措置に必要な体制を図り、学院の健全な経営、教育研究体制の維持発展に資することを目的とし、法令違反に関する内部通報を通報窓口にて受け付けます。通報の対象となる法律については、「[公益通報者保護制度ウェブサイト](#)」を参照してください。

公益通報

下記公益通報者が、学院について、法令違反が生じ又はまさに生じようとしている事実を、不正の利益を得る目的や、学院または第三者に損害を加える目的ではなく、学院内部や行政機関等に通報することをいいます。ただし、[ハラスメントに関する通報](#)および[公的研究費等における不正行為に関する通報](#)は、別の取扱いとなります。

明治学院公益通報フロー図 (PDF /175KB) >

学校法人明治学院公益通報に関する規程
(PDF /163KB) >

公益通報者

明治学院において公益通報保護法の対象となるのは、以下の方です。

- ・学院と雇用関係にある教職員
- ・学院と雇用関係にある大学院生及び学生
- ・労働者派遣契約に基づく派遣労働者
- ・学院の取引事業者の労働者
- ・その他学院と雇用関係にある者

公益通報者保護

学院は公益通報者保護法その他関係法令を遵守し、公益通報者に対して、公益通報または相談をしたことを理由に本人が不利益を被る取扱いを行うことはありません。

通報・相談の方法および受付

下記窓口において、文書、Faxでの通報をすることができます。通報には「学校法人明治学院 公益通報書」フォーマットをお使いください。監査室のみ電子メール、面談での通報または相談も受け付けております。面談での相談をご希望の方は、事前に電話予約をお願いします。原則として匿名での通報・相談は受け付けておりません。通報者のプライバシーは厳重に守られます。

監査室 明治学院大学白金キャンパス本館9階

【封書】 〒108-8636東京都港区白金台1-2-37 明治学院監査室 *「公益通報」と封筒に記してください。

【メール】 koeki@mguad.meijigakuin.ac.jp

【Fax】 03-5421-5448

【Tel】 03-5421-5453（予約専用）

*日曜・祝日・学院の休業日には受け付けておりません。

外部窓口（弁護士） 永田町新総合法律事務所内 明治学院公益通報担当弁護士

【封書】〒102-0093 東京都千代田区平河町2-5-5 全国旅館会館2階

永田町新総合法律事務所内 明治学院公益通報担当弁護士宛

【Fax】03-3234-9817

*日曜・祝日・事務所の休業日には受け付けておりません。

学校法人明治学院公益通報書 PDF版 (PDF /116KB) >

学校法人明治学院公益通報書 MicrosoftWord版
(word /36KB) >

通報後のプロセス

公益通報として受理された場合、監査室もしくは理事長召集の調査委員会が調査をします。調査後、理事長が是正措置および再発防止策を講じ、監査室が通報者に結果について連絡いたします。

その他お問合せ

- ・明治学院高等学校 事務室
- ・明治学院中学校・東村山高等学校事務室
- ・明治学院大学 [お問合せフォーム](#)

学校法人明治学院 個人情報保護方針

個人情報の保護に対する考え方

情報化社会の中で、個人情報の保護が国際的・社会的に重要な課題になっております。学校法人明治学院は、これら個人情報を適切に利用し、保護することが、社会的責任であると考えております。本学院では、個人情報を適切に取扱うべく勤務員に「学校法人明治学院個人情報保護方針」の徹底を図っております。

学校法人明治学院 個人情報保護方針

1. 「コンプライアンス・プログラム（遵守規程）」の策定および継続的改善
学校法人明治学院は、勤務員に個人情報保護の重要性を認識させ、個人情報を適切に利用し、保護するために個人情報保護のためのコンプライアンス・プログラムを策定し、これを着実に実施します。更に、これを維持し、継続的に改善して参ります。
2. 個人情報の収集・利用・提供
本学院は、業務実態に応じた個人情報保護のための管理体制を確立すると共に、個人情報の収集、利用、提供において所定の規則に従い適切に取扱いします。
3. 安全対策の実施
本学院は、個人情報の正確性および安全性を確保するため、情報セキュリティ対策をはじめとする安全対策を実施し、個人情報への不正アクセス、または個人情報の紛失、破壊、改ざん、漏えい等の予防に努めます。
4. 権利の尊重
本学院は、個人情報に関する個人の権利を尊重し、自己の個人情報に対する開示、訂正削除、また、利用もしくは提供の拒否を求められたときは、社会通念や慣行に照らし合理的な範囲でこれに応じます。
5. 法令・規範の遵守
本学院は、個人情報の取扱いにおいて当該個人情報の保護に適用される法令およびその他の規範を遵守します。

以上
2005年4月1日
学校法人 明治学院

(参考)「学校法人明治学院個人情報保護基本規程」
(PDF : 256KB) >

HOME > 留学・国際交流 > 国際化に向けて > **国際化への取り組み**

国際化への取り組み



明治学院大学は、より幅広い国際交流活動を目的として、2015年5月、「国連アカデミック・インパクト」(United Nations Academic Impact)および国連グローバル・コンパクト(United Nations Global Compact)に参加しました。[国連ユースボランティアプログラム](#)への学生派遣や、海外へ派遣する教員、招聘教授などの教育研究活動を通じ、国際社会の貢献に寄与します。

「国連アカデミック・インパクト」への参画

国連アカデミック・インパクトは、国連広報局(DPI)のアウトリーチ部が担当するプログラムです。国連アカデミック・インパクトの対象は、学位を授与する全ての高等教育機関、またはそれに相当する実質的な研究を行っている機関です。このプログラムの枠組みは以下の通りです。

- 世界各国の高等教育機関同士の連携、また、教育機関と国連との連携を促す
- ミレニアム開発目標(MDGs)をはじめとする、国連に委託された業務・活動に、教育機関がコミットできる仕組みを提供する
- 国連に委託された業務・活動に関する意見や提案の連絡窓口の役割を担う
- 国連に委託された業務・活動に関するプログラム、プロジェクト、イニシアチブに対する教育機関の直接的な関与を促す

国連アカデミック・インパクトは、以下の10原則を支持し促進させるというコミットメントによって成り立っています。

- 原則1：国連憲章の原則を推進し、実現する
- 原則2：探求、意見、演説の自由を認める
- 原則3：性別、人種、宗教、民族を問わず、全ての人に教育の機会を提供する
- 原則4：高等教育に必要とされるスキル、知識を習得する機会を全ての人に提供する
- 原則5：世界各国の高等教育制度において、能力を育成する
- 原則6：人々の国際市民としての意識を高める
- 原則7：平和、紛争解決を促す
- 原則8：貧困問題に取り組む
- 原則9：持続可能性を推進する
- 原則10：異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く

国連アカデミック・インパクトに参加する団体は、国連アカデミック・インパクトの基本原則を踏まえた方針やプログラムを奨励することを求められています。以下の項目は、参加団体に特に求められる事項です。

1. 国連アカデミック・インパクトの基本原則のうち、少なくとも一つに関連する取り組みを年の一つ決めて実施する。活動として認められる取り組みには、特定の領域における研究活動、論文、会議の主催、国連関連の事業に参加を希望する学生への財政的な援助、あるいは、学内キャンパスでの特定の企画や活動が挙げられる。

本学では、「原則1：国連憲章の原則を推進し、実現する」に関する活動を行っています。国際センターが中心になり、セミナーや留学生との交流会等を開催しています。

2. 参加団体のウェブサイトや定期刊行物の中で、各団体が積極的に取り組んでいる国連アカデミック・インパクトの活動やその内容を紹介したり、国連アカデミック・インパクトと参加団体の関連性について出来る限り発信するように努める。

明治学院大学の活動記録は随時国連アカデミック・インパクトの[公式ウェブサイト](#)における[本学のページ](#)に随時発信しています。

関連ページ

[UNAI公式ウェブサイト](#)

[明治学院大学国際平和研究所\(PRIME\)](#)

「国連グローバル・コンパクト」への参画

国連グローバル・コンパクトは、各企業・大学が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する自発的な取り組みです。国連事務総長の直下に、「人権」、「環境」、「労働」、「反汚職」の4つを軸に、国連と民間団体が協力関係を構築するためのネットワークとして置かれています。

国連グローバル・コンパクトについての詳しい情報は下記のURLをご覧ください。

[グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク](#)

[United Nations Global Compact](#)

教育研究活動の実績

本学では学生の海外派遣の成果について検証を行っています。また、国際化への取り組みの一環として、海外の教育・研究機関からの招聘教授の受入や海外の大学に専任教員を派遣する事業を行っています。

学生の海外派遣の現状

招聘教授に関する招聘期間中の教育研究活動実績報告書

[Yukari OKAMOTO\(2019.4.1-2019.7.31\)](#)

[Nahum D. CHANDLER\(2019.8.1-2019.12.31\)](#)

教員の海外派遣に関する派遣期間中の教育研究活動実績報告書

[中田瑞穂\(2019年度秋学期\)](#)

[趙星銀\(2020年度秋学期\)](#)

[GILL Thomas Paramor\(2021年度秋学期\)](#)

おすすめ



明学での出会い、学び、これからの夢。それぞれの明学ストーリー。「明学の理由。」



入試情報はこちら



【キャリア支援】キャリアをデザインできる人間を育てる



各学部学科の最新情報はこちら